

2025年度(令和7年度)

事業報告書

(自)2025年 4月 1 日
(至)2026年 3月 31 日

社会福祉法人 世田谷ボランティア協会

目 次

はじめに	1
I. ボランティア・市民活動推進第1部 総括	2
1. ボランティアコーディネート事業	3
2. ボランティア学習事業	6
3. ボランティア情報ネットワーク事業	7
4. 地域連携促進事業	8
5. パートナースHIP事業	9
6. コミュニティビジネス事業	12
7. せたがやチャイルドラインの取組み	13
8. 成果と今後の課題	15
9. 職員体制	15
ボランティア・市民活動推進第1部 実績報告 データ・資料編	16
II. ボランティア・市民活動推進第2部(せたがや災害ボランティアセンター)総括	38
1. 災害ボランティアコーディネーターの拡充	38
2. サテライトでのコーディネート活動を充実させるための基盤整備	39
3. 行政や避難所運営組織等と連携した区民への情報提供の拡充	40
4. 災害ボランティア登録制度の整備と運用	42
5. ネットワーク・情報交換活動	43
6. 災害支援のための活動	43
7. 成果と今後の課題	44
8. 職員体制	44
ボランティア・市民活動推進 第2部 実績報告 データ・資料編	45
III. 福祉事業部 総括	52
1. ケアセンターふらっと	53
(障害者総合支援法 生活介護事業・自立訓練事業 ・高次脳機能障害者支援促進事業・特定相談支援事業)	
2. ケアセンターwith	56
(介護保険制度 地域密着型通所介護事業)	
3. ケアステーション連	58
(訪問介護事業 居宅介護事業 自由契約)	
4. ケア相談センター結	60
(介護保険 居宅介護支援事業)	
5. 地域障害者相談支援センターぼーとせたがや	61
6. パートナーセンター事業	63
福祉事業部 実績報告 データ・資料編	65
IV. 組織推進部 総括	74
1. 組織運営	74
2. 事務局運営	78
3. 財政運営	80
4. 職員体制	81
5. 今後の課題	82
組織運営体制図	83

2025 年度事業報告

はじめに

社会福祉法人世田谷ボランティア協会(以下「協会」という。)は、1981年の設立から44年経過しました。この間、社会のニーズや地域コミュニティの大きな変化を敏感にとらえながら民間のボランティア活動支援団体として柔軟に対応し、地域コミュニティの推進役として様々な活動をけん引してきました。人と人のふれ合い、交流する機会であるごきんじょ市や極楽フェス、リサイクルバザーなどには、多くの方にご参加いただき、活発に活動が行われています。

2024年度を初年度とする「中期計画」も2年目を迎え、協会がめざす「だれでも、地域社会の中で支え合いのつながりを持つことができ、互いに尊重し合って、安心して自分らしく暮らすことができる社会」に向けて一步一步着実に取り組みを進めてきました。2025年度の各部の取り組み状況については、この事業報告書の中で明らかにしていきます。

ボランティア・市民活動推進第1部では、区内5か所の拠点がそれぞれ地域に根ざした活動を進めるとともに、「ボランティア情報ガイド『おたがいさま bank』とボランティアマッチングの充実」の実現に向けて、地域活動団体との連携や交流を通じて地域課題を的確に把握して解決に向け取り組んできました。

せたがやチャイルドラインは、活動開始から25年以上にわたって、子どもたちに向けて、安心して話ができる大人がいることを伝え、自分の問題を子どもたち自身が考え、解決していけるように、電話とオンラインチャットを活用し、引き続き取り組んできました。

ボランティア・市民活動推進第2部災害ボランティアセンターでは、「災害ボランティアセンターの地域連携と認知度向上」をめざし、頻発・激甚化する地震災害や洪水被害などにより防災に対する区民の関心や危機意識が高まっていることから、被災地での活動実績や知見をもとに区内各地区の避難所運営訓練や防災塾などの機会をとらえて、防災啓発活動を進めてきました。今年度は特に7月と9月の2回の集中豪雨による浸水被害に対して、合わせて延べ428人のボランティアと職員が活動しました。今後とも、常設の災害ボランティアセンターとしての強みを生かして、災害時に効果的な復興・復旧につなげられるように、日頃から職員と災害ボランティアや災害ボランティアコーディネーターが協力しながら実践的な取り組みを進めていきます。

福祉事業部は、1996年の創設以来29年にわたって、ケアセンターふらっとや with での通所支援事業をはじめ、ケアステーション連による生活支援事業、ケア相談センター結やぽーとせたがやなどによる相談事業など、地域の様々なニーズに応える活動を進めてきました。少子高齢化の進展や社会構造の変化に伴い、介護や障害福祉サービスの需要が増加する一方で、介護報酬等の改定や福祉人材不足、物価高騰などの影響を受けて、事業の再構築が必要になってきたことを実感しています。今後、各事業が地域の中で、どのような役割を求められているかや課題を整理しつつ、具体的に取り組むべきことを検討し、これまで長年培ってきた専門性と地域とのつながりを生かし、新たな事業展開を目指していきます。

組織推進部では、引き続き「安心して働き続けることのできる職場環境づくり」と「業務デジタル化の整備・推進」を重点事業として定め、労働環境の整備やコンプライアンス意識の向上を図るために規程類の整備を行い、効果的な運用が図られるように、職員への周知により力点を置き、取り組んできました。また、組織基盤を強化するために自主財源の確保に努め、安定的な事業収益を確保し持続可能な組織運営を進めることを基本に、クレジットカード決済による寄附の取扱いに加え、ホームページ等の改修や新たな電子媒体の対応、法改正等に的確に対応するためにデジタル技術を活用した業務改善を各部と協議して進めていきます。

I. ボランティア・市民活動推進第1部

世田谷区内5地域各1か所の拠点（ボランティアセンターと4つのボランティアビューロー）がそれぞれ地域に根ざした活動を展開した。世田谷ボランティアセンターの地元である下馬地区で開始した居場所づくりの取組みは順調で、参加者の幅も広がっている。北沢ボランティアビューローについては、建物の老朽化により区が施工する改修工事に伴い、仮事務所運営や利用団体の代替活動場所確保など、区と連携して対応し、近隣住民や関係者の理解を得て、工事を予定通り終えることができた。

ボランティアコーディネート事業では、ボランティア活動をしようとする個人・団体と、その力を必要とする個人・団体とのマッチングや活動支援を行うとともに、数年にわたって進めてきた活動記録形式の統一化によりマッチング率を算出し、本年度から公表することとした。市民活動・NPO応援セミナーは、講義を中心に開催した上半期に続き、下半期は既に活動している団体の事例紹介を中心に開催した。区内の学生ボランティア団体のネットワーク支援については、「せたがや学生ボランティアフォーラム」の開催や、地域活動団体(特に区内の社会福祉法人)との連携拡大に向けて、中間支援組織としての役割を務めた。

広報については、リニューアルした情報誌「セボネ」や拠点ごとのボランティアだより等の紙媒体とSNS等ウェブ媒体を併用して展開するとともに、協会としての広報体制刷新に向けた検討を進めた。また、様々な地域イベントへの参加を通じて協会の活動をPRするとともに、ボランティアセンター利用団体交流会等の機会も活用して、クレジットカード利用が可能になった寄付の呼びかけ強化に努めた。

せたがやチャイルドラインは、安心して話ができる大人がいることを子どもたちに伝え、子どもの声に耳を傾け気持ちを受けとめる活動を電話とチャットにより実施した。メンバーを対象に行ったアンケートの結果をもとに話し合いを持ち、支え手集中研修をコロナ禍以来久々に合宿形式で再開し、支え手としてのかかわりのスキルアップの機会とするなど、持続可能な運営に努めた。

■ボランティアセンター・ボランティアビューロー



1 ボランティアコーディネート事業

(1) 重点目標

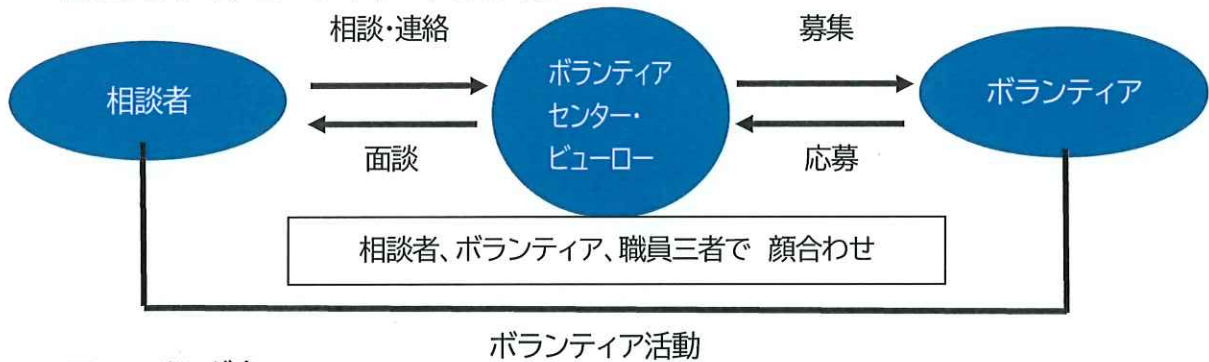
- ・ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・団体等の活動をコーディネートし、地域とのつながりやボランティア自身の学びの機会としていけるよう支援を行う。
- ・活動拠点の特性を活かし情報発信や場の提供等を行い、ボランティアや市民活動・NPOへの支援を充実していく。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① ボランティア相談

互いに「支えあう」コミュニティづくりに資することを目指し、区内5地域に活動拠点を有する協会のネットワークを活かして、ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談をセンターやビューローで受け、活動のコーディネートを行った。

■ボランティアコーディネートのしくみ



■マッチング率

ボランティアを必要とする方のニーズのうち、ボランティア活動につなぐことができた割合（マッチング率）の把握が課題であったが、センターと各ビューローの記録形式を統一することにより、本年度からマッチング率を算出して、事業報告にて公表することとした。

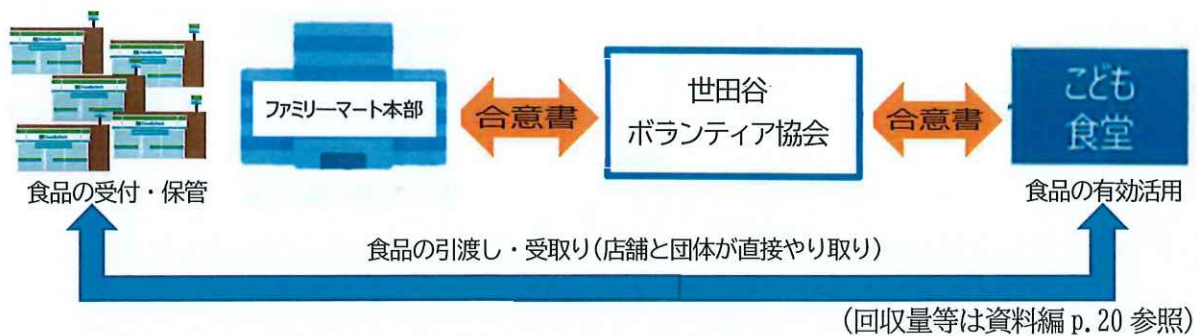
2025年度のマッチング率は78.5%であった（センター・ビューロー合計）。 **【新規】**

（相談件数等の詳細は資料編 p. 16-18 参照）

■企業のフードドライブ活動と活動団体のマッチング協力

2023年6月から企業の社会貢献の取組みと、区内で子ども食堂等の活動を行っている団体を世田谷ボランティア協会がつなぎ、連携することにより、食の支援を必要としている方への食品等の提供と、食品の有効活用（食品ロス削減）を図る取組みを行った。

ファミリーマート店舗



■公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団との連携

公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団が2024年度から開設した「世田谷スポーツ人材バンク」について、ボランティア協会も「おたがいさま bank」登録者への案内、ボランティア募集情報の「おたがいさま bank」への掲載など連携、協力を行った。

② 市民活動・NPO相談

ア. 市民活動・NPO相談事業

世田谷区(市民活動推進課)の委託事業として、市民活動・NPO等の相談窓口を開設し、任意団体の立ち上げ、NPO法人の設立、広報活動などの団体運営に関する相談を受け、課題解決に向けて伴走型の支援を行うとともに、市民活動・NPO向けのセミナーを開催した。

(相談件数等は資料編 p.19 参照)

■市民活動・NPO応援セミナー

区内で地域づくりやボランティアなどの市民活動を始めてみたいと考える個人・団体を対象に「地域で活動を始めたい人へ はじめの一步セミナー」と題して、区(市民活動推進課)と協働で開催した。上半期は『活動の始め方と仲間づくり』をテーマに、主に団体の活動に必要な情報を提供し、下半期は『活動の先輩から学びませんか』をテーマに、既に活動を始めている2団体から実践報告を聴いた。いずれの回もグループ討議を行って相互交流の機会を提供し、参加者から「今後の活動につながるきっかけになった」と好評であった。(詳細は資料編 p.20 参照)



■一般財団法人世田谷トラストまちづくりとの連携

一般財団法人世田谷トラストまちづくり(以下、トラストまちづくり)は、空き家、空き室、空き部屋等を地域のために活用したいと考えるオーナーの相談窓口となり、市民活動団体とのマッチングを行っている(区委託事業)。

世田谷区の制度上の建物要件があり窓口で取り扱える物件が限られていることから、要件を満たさない物件や活用先が見つからない物件についてトラストまちづくりから協会への情報提供の協力を2025年度から開始した。2025年度中に成約に至る案件はなかったものの、協会の市民活動・NPO相談において、活動の場を必要とする団体のニーズとのマッチングの可能性を探っている。

【新規】

イ. 市民活動・NPO専門相談事業

専門的なアドバイスが必要な団体・グループ、個人を対象に、会計・税務、労務、法務の専門相談を実施し、専門家(税理士、社会保険労務士、弁護士)からのアドバイスを参考に課題解決に向けた支援を行った。

(相談件数等は資料編 p.19 参照)

③ 地域包括ケアへの取り組み

地域課題の共有や解決につなげていくべく、地域ケア連絡会をはじめ、地域・地区における様々な会議や事業に積極的に参加して地域連携を図った。

(5 パートナリシップ事業 ⑦地域・地区連携に向けた会議出席・事業参加 参照)

④ 傾聴ボランティアマッチング

ひとり暮らし高齢者や日中独居高齢者などの精神的なサポートを行うことを目的に、傾聴ボランティアのマッチングを行った。

傾聴のニーズ把握にあたり、あんしんすこやかセンターや民生・児童委員等関係機関に、傾聴ボランティアのマッチングと傾聴ボランティア講座の実施について周知を行った。

⑤ 傾聴ボランティアの養成、活動支援

傾聴のニーズに応えられるよう、傾聴ボランティアを養成するための傾聴ボランティア養成講座を玉川ビューロー・砧ビューローで実施するとともに、2025年度は世田谷ボランティアセンターでも2026年2～3月に開催した。

傾聴ボランティア養成講座修了後の活動者を対象に、活動に必要な学びを深め、相互の交流を図ることを目的とした傾聴ボランティア学習会や交流会、フォロー講座を実施した。

(⑦ ボランティアビューローの取り組み 参照)

(詳細は資料編 p.20 参照)



⑥ ボランティア情報ガイド「おたがいさま bank」

ア. おたがいさま bank を活用した情報提供とボランティアマッチング

「おたがいさま bank」は、ボランティア活動希望者に関心のある分野で登録していただき、情報を必要とする人に定期的にボランティア情報を発信して、地域における日常的なボランティア活動の担い手拡大を図る仕組みである。

2024年度末の登録者数は約4,000名であったが、上半期にシステム移行に伴い再登録を呼びかけるとともに登録データの精査を行って、より効率的な情報提供を進めている。

- ・新規登録人数 415名
- ・男女比 男性 33%、女性 67%

(詳細は資料編 p.18 参照)

イ. AIシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）

ボランティア活動希望者とボランティアのサポートを求める方が当事者間で調整する「おたがいさま bank」を補完する形で、マッチングの結果をより把握しやすい仕組みであるAIシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER（ジーバー））も活用している。

協会は地域管理者として、システムを開発した東京大学先端科学技術研究センター等と連携し、ボランティア活動希望者とボランティアのサポートを求める方や団体とを活動分野や活動エリアから結び付けやすくし、ボランティア活動の支援を図った。（詳細は資料編 p.19 参照）

ウ. 区民・事業者向けセミナーの開催

ボランティア活動希望者と必要とする人をつなぐしくみや具体の取組例について、広く区民、団体・事業所に紹介するセミナーと相談会を、区(市民活動推進課)と協働で開催した。

(詳細は資料編 p.19 参照)

⑦ ボランティアビューローの取り組み

地域に密着したボランティア活動の拠点施設として、地域の人たちが出会い、ふれあい、学びあう、各地域のニーズに根ざした特色ある事業をビューローごとに展開した。

■ビューロー共通の取り組み

(ビューローごとの取り組みは資料編 p.21-23 参照)

- ・ボランティア相談
- ・市民活動・NPO相談
- ・ボランティア情報ネットワーク事業(「ビューローだより」「ボランティアだより」の発行)
- ・ボランティア学習事業(ナツボラ・ジュニア事業の実施)

2 ボランティア学習事業

(1) 重点目標

- ・小・中学校、高校での総合的な学習の時間を活用し、次世代のボランティアの育成を目指す。
- ・体験型学習プログラムであるナツボラ、ナツボラ・ジュニアを通じ、地域の活動団体と連携することで様々な人との出会いや多様な経験を通じて、主体的に行動できる次世代のボランティアの育成を目指す。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① ナツボラ 2025 (夏のボランティア体験)

プログラムを通して様々な人と出会い、多様な経験を通じ地域課題への理解を深め、他者と協力し主体的に行動できる次世代のボランティアを育成することを目的に、ボランティアセンターが企画・実施し、夏休み期間中にボランティア体験の機会を提供した。また、事業を通じて福祉施設や活動団体等の関係性を深めた。(詳細は資料編 p.24 参照)

- ・対象：中学生から 30 歳位の青少年
- ・活動場所：区内福祉施設、NPO・NGO 団体、ボランティアグループ 等



② ナツボラ・ジュニア 2025

地域での支えあいの心を育むことを目的に、ボランティアセンターとボランティアビューローが企画・実施し、夏休み期間中にボランティア体験の機会を提供した。(詳細は資料編 p.24 参照)

- ・対象：小学生とその家族
- ・活動場所：区内福祉施設、NPO・NGO 団体、ボランティアグループ 等

③ 総合学習・奉仕体験活動等コーディネート

小・中学校の「総合的な学習の時間」等の授業協力や、区内の高校・大学からの講座等の依頼に積極的に対応し、ボランティア学習の機会を提供した。(詳細は資料編 p.24 参照)

④ ボランティアビューローの取組み

■障害についての勉強会 (玉川ボランティアビューロー)

区内大学と連携して障害に関する講義や疑似体験などを取り入れた講座を実施し、大学生が障害について考え、知る機会を提供する。国土館大学刑事学研究会、渋谷区 BBS 会との共催により、勉強会「地域でボランティアをやってみよう！」を国土館大学にて開催した。

	実施日	テーマ	参加者数
第 1 回	6 月 12 日	「知的障害疑似体験」「人とかかわるとき」	20 名
第 2 回	6 月 19 日	「発達障害ってなに?」「世田谷区役所の仕事と障害者の支援」	18 名

■発達学習会 (玉川ボランティアビューロー)

ボランティアや地域の方々に向けて、発達障害についての理解を深める学びの場、「おたがいさま学習会 (発達障がいの理解) ~発達障がいのある方とのゆるやかなかわり」を世田谷区と共催した。講師は、東京都自閉症協会副理事長 尾崎ミオ氏。

開催日：11 月 6 日 (木) 参加者：18 名

内容：①世田谷区からのお話、講義「発達障害とは?」、②当事者のお話

【新規】

3 ボランティア情報ネットワーク事業

(1) 重点目標

- ・インターネットを活用した広報媒体（ホームページ、ブログ、メールマガジン、Facebook、Instagram）と紙による広報媒体（セボネ、ボランティアだより）の特徴や利点を活かした情報発信を行う。
- ・多様な市民活動の紹介、活動情報等を掲載し、地域に関わるきっかけとなるとともにボランティア協会の認知度を高めるよう掲載内容の充実を図る。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① ボランティア情報誌「セボネ」

「人が変わる 社会が変わる」をコンセプトに、生活のあらゆる場面からボランティア・市民活動をより身近に感じてもらうことを目的に、協会の取組みや区内で特色のあるボランティア活動等を紹介し、ボランティア活動につながるための情報誌「セボネ（セタガヤ・ボランティア・ネットワーク）」を月1回発行した。2025年度においては年2回災害特集号を発行し、せたがや災害ボランティアセンターの周知や防災シンポジウムの開催報告等を行った。

ボランティアの編集委員による編集会議を毎月開催し、特集記事や団体紹介等の掲載内容、誌面充実の検討を行った。また、協会としての広報体制刷新に向けた検討を進めた。

【発行部数】4,500～6,500部/月（編集委員、発行実績等は資料編 p.25-26 参照）

② ボランティアビューロー情報紙「ボランティアだより」

ボランティアビューロー事業の紹介や地域のボランティア活動情報を提供するため、各ビューローによる「ボランティアだより」を毎月発行した。掲示を併用する等、発行部数の精査を図った。世田谷地域の情報発信を充実するため、2026年度に向けて「ボランティアセンターだより」（仮称）発行の検討も進めた。

【毎月の発行部数】北沢2,520部、玉川1,990部、砧1,000部、烏山700部



③ 電子媒体を活用した情報発信

より多くの方がタイムリーに情報を得られるよう、協会ホームページを基軸に、ブログ、Facebook、Instagramなど各々の広報媒体の特徴を活かし、掲載情報を工夫して発信した。

「おたがいさま bank」の登録者にメールマガジンで活動情報を提供する等ボランティア活動の担い手を増やすよう取組みを進めた。（詳細は資料編 p.27 参照）

④ ボランティア・市民活動情報の提供

ボランティアセンターやボランティアビューローに、区内外の市民団体や地域活動等の資料を掲示・配架して、ボランティア・市民活動に関する情報提供を行った。

4 地域連携促進事業

(1) 重点目標

- ・ボランティアセンター、ボランティアビューローが地域と連携することで、ボランティア協会の認知度を高める。
- ・全区、地域を対象とした事業に積極的に参加し、個人、団体等と交流してボランティアセンター、ボランティアビューロー事業に活かす。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① おたがいさまフェスタ 2025

世田谷ボランティア協会のある複合施設「パーム下馬」の機能や活動の認知度を高めるため、下馬2丁目北町会をはじめ地元で活動する様々な団体と連携して2002年から開催してきた。

バザー、防災PR、ステージプログラム等 楽しんで交流できる機会、地域とボランティアをつなげる場として一定の役割を果たしたため、「おたがいさまフェスタ」としての開催は2025年度をもって終了し、2026年度は下馬地区で活動する団体・組織がそれぞれの特性を活かして開催する「極楽フェス」に移行する。



② 雑居まつり

多様なボランティア・市民活動団体が連携して開催する「雑居まつり」は、2025年度に第50回を迎えた。実行委員会の一員として参加し、当日は福祉事業部と連携したブース出店や防災PRにより協会の取組みへの認知度を高めた。

③ ごきんじよ市

世田谷地域で働いている人、暮らしている人、学んでいる人、ボランティアしている人など様々な人たちが「ご近所」というキーワードで互いに知り合い、福祉分野、商店街、大学等が、地域のつながりを広げる場として、地域障害者相談支援センター「ぽーと せたがや」と協働して三軒茶屋ふれあい広場で開催した（来場者数約2000人。ボランティア約70名参加）



④ 他団体と連携した事業の開催、参加、出展

他団体と連携した事業を開催するとともに、区内で開催される様々な催し・イベントに参加して活動案内を行い、協会の認知度を高めるとともにバザー出展し自主財源の確保を図った。

(詳細は資料編 p.29-30 参照)

⑤ 会議室、機材の提供

ボランティアセンター、ボランティアビューローにおいてボランティア、区民・団体の活動の支援として会議室や機材、Wi-Fi 環境の提供等を行った。

* 砧ボランティアビューロー準備室を除く (利用実績等は資料編 p. 28 参照)

北沢ボランティアビューローは、建物の老朽化により区が施工する改修工事のため、2025年9月から2026年3月まで仮事務所(世田谷区梅丘分庁舎内)に移転した。この間、仮事務所の運営や会議室貸出休止に伴う利用団体の代替活動場所確保など、区と連携して対応し、近隣住民や関係者の理解を得て、工事を予定通り終えることができた。



⑥ みんなの居場所しもうま

世田谷ボランティアセンターが立地する下馬地区に住む人を主な対象として、人と人がつながり、助け合う関係性を築くことで、協会の理念である「おたがいさま」の心を地域に広げることがめざし、2025年度から次の事業を開始した。(詳細は資料編 p. 28 参照)【新規】

- ・ 地域の人が気軽に集える、交流する場「しもうまボランティア」 2025年4月から毎週開催
- ・ 学生を巻き込んだ「しもうまスチューデントクラブ」 2025年5月から随時開催
- ・ みんなと一緒にご飯を食べる「うまうま食堂」 2025年9月から年3回開催



5 パートナーシップ事業

(1) 重点目標

- ・ 世田谷ボランティア協会は中間支援組織としてボランティア団体、市民活動・NPO、行政、関係機関、企業等とのパートナーシップを構築する。
- ・ 地域の社会資源をネットワークしボランティア協会として地域ニーズを踏まえた事業を展開する。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① 世田谷区市民活動情報連絡会への参加

従来の「市民活動支援会議」を2025年度に改編し、世田谷区内の中間支援機関と行政による情報交換を行う「市民活動情報連絡会」を設け、ボランティア・市民活動の支援を図ることとなり、協会もこの連絡会に参加した(2025年12月24日)。

■参加団体・組織

世田谷区社会福祉協議会、世田谷ボランティア協会、せたがや文化財団(生活工房)、世田谷トラストまちづくり、国際ボランティア学生協会(IVUSA)、共生会SHOWA(男女共同参画センターらぷらす)、世田谷区市民活動推進課(主催)

② 世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営委員会準備会への参加

世田谷区は、区内の様々な地域から訪れる区民がふれあい、交流できる場所として、新しい本庁舎等における区民交流スペース、広場、屋上庭園等、区民利用・交流拠点施設の整備を令和8(2026)年度の開設に向けて進めている。

運営における情報や課題を共有して改善策を話し合うために設置された事業運営委員会準備会に協会は当初からオブザーバー委員として参加し、様々な提案を行った。

2025年5月27日 保健医療福祉総合プラザ、8月27日 梅丘パークホール

2026年2月5日 世田谷区民会館集会室

③ 世田谷区地域福祉推進連絡会議への参加

世田谷区の地域生活課題を解決していくため居場所や生活支援サービスなど新たな地域資源の創出に向けた取組を行うことを目的に、生活支援サービスの提供主体、ボランティア、NPO、地縁組織など地域活動団体が参画して情報共有や連携強化を行う会議に参加した。【新規】

2025年7月1日 世田谷区社会福祉協議会 12月9日 世田谷区社会福祉協議会

④ 世田谷区社会福祉法人地域公益活動協議会(せたがや公益協)への参加

区内の社会福祉法人が相互の連携・協働により、地域のニーズや課題を受け止め、地域公益活動に取り組むことを通じて区民の福祉向上等を図ることを目的とする協議会に参加した。

2025年度は、せたがや学生ボランティアフォーラムについて情報提供し、複数の法人の参加を得た。また、2つの検討部会において、せたがや学生ボランティアネットワーク及びせたがや災害ボランティアセンターの取組の事例報告を行った。

全体会 2025年6月5日 大学等との接点づくり検討部会 12月18日、2026年3月12日

災害時対応検討部会 12月11日、2026年3月16日

⑤ せたがや学生ボランティアネットワーク運営支援

区内大学の学生ボランティア団体、行政、地域をつなぐ活動ネットワーク構築を目的とする「せたがや学生ボランティアネットワーク」に参加している学生団体のニーズに応じ、世田谷区(市民活動推進課)と協働でボランティア活動のコーディネートを行った。具体的には、定期的に情報共有・意見交換を行う会議の運営や、「せたがや学生ボランティアフォーラム」(10月4日 北沢タウンホール)の開催を支援し、学生ボランティア団体と地域活動団体との連携拡大にあたった。



(ネットワーク参加団体、会議開催実績等は資料編 p.31 参照)

⑥ せたがや生涯現役ネットワークへの参加

区内約 60 の団体で構成する「せたがや生涯現役ネットワーク」に参加し、他団体との連携を図った。特に生涯現役フェアでは、開催地域である北沢ボランティアビューローの取組みを「ケアマフ」を中心に多くの来場者・参加団体に紹介した。(資料編 p.30 4. 地域連携促進事業 参照)

2025 年 5 月 26 日 総会 (北沢タウンホール)

2026 年 1 月 18 日 生涯現役フェア (北沢タウンホール)

⑦ 世田谷区職員研修の企画・運営

世田谷区の採用 1 年目職員を対象に、区の委託事業として「障害福祉体験」研修の企画を行った。「誰もが暮らしやすいまちを実現するために」をテーマに、屋内外での車いす体験やアイマスク体験、NPO 法人世田谷区視力障害者福祉協会、NPO 法人世田谷区聴覚障害者協会の協力を得て障害当事者講師と研修生とのディスカッションの機会等をプログラムし、仕事を進めるうえで必要な知見を広げ障害に対する理解を深めることを目的に実施した。

(詳細は資料編 p. 32 参照)

⑧ 視察・見学者、インターンシップの受け入れ

視察・見学を希望する個人・団体を受け入れ、活動を体験するなどのコーディネートを行うとともに、大学等の依頼による学生のインターンシップや特別支援学校の依頼による生徒の現場実習の受け入れを行うなど、協会の多様な地域事業を学んでいただく機会とした。

(詳細は資料編 p. 32 参照)

⑨ 各拠点における地域パートナーシップの取組み

地域課題の共有や解決につなげていくことをめざし、ボランティアセンター、ビューロー共通の取組みとして地域・地区における様々な会議や事業に積極的に参加して地域連携を図った。

拠点	連携する主な地域団体・会議体等	
世田谷	・世田谷地域ケア連絡会	・三宿・池尻まちこま会
北沢	・梅丘地区見守りネットの会	
玉川	・発達障害・障害児サポート情報共有会 ・発達障害関連団体との連絡会 ・二子玉川 100 年懇話会	・用賀地区四者連携会議 ・地域ケア会議 (用賀、二子玉川、深沢) ・社協運営委員会
砧	・ご近所フォーラム実行委員会 ・砧地域 地域ケア連絡会	・地区版地域ケア会議 (祖師谷、成城、喜多見)
烏山	・絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆ ・烏山エリア自立支援協議会	・烏山地域版地域ケア会議 ・烏山合同包括ケア会議(いきいき講座) ・要保護児童支援協議会

(詳細は資料編 p. 32-33 参照)

⑩ 東京ボランティア・市民活動センター (略称：TVAC) との連携

TVAC が実施する研修への参加、市民活動・NPO 応援セミナー等開催時の TVAC からの講師派遣、都内ボランティアセンターが集う会議への参加等により、関係機関相互のネットワークを強化し、職員のスキルアップを図った。

⑪ 全国ボランティア推進団体会議への参画

ボランタリーに市民活動を進めようとする団体・個人が、日頃から団体相互の顔の見える関係をつくるべく相互研鑽を進める「全国ボランティア推進団体会議」(通称：民ボラ)の幹事団体として参画し、第 42 回会議(2025 年 7 月 5~6 日 静岡市)の企画立案や当日の運営に協力した。

6 コミュニティビジネス事業

(1) 重点目標

- ・生活の中にリユース・リサイクル活動を意識づけ、身近なところから活動に参加できる機会を提供する。
- ・活動で得た収入を活動資金とし、自主財源の確保に努める。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① リサイクル市

リユース・リサイクル意識の向上と推進、ボランティア活動機会の提供、自主財源の確保を目的に、ボランティアグループ「てんとう虫」の協力を得てボランティアセンターにてバザーを実施している。上半期は7月19日(土)に「こどもバザー」を、下半期は3月14日(土)に「リサイクル市」を開催した。

要望に応じて提供品の定期回収を行うこととし、2025年9月から毎月第1土曜日に回収を受け付けている。
(詳細は資料編 p.30 参照)

② 烏山もったいないバザール

烏山ボランティアビューローをはじめ世田谷ボランティア協会の活動PR、参加団体と地域との交流の場、自主財源の確保を目的に5月25日(日)烏山区民センター前広場にて開催した。22団体が参加し、出店者、来場者間の交流が生まれ、充実したイベントとなった。

(詳細は資料編 p.29・34 参照)



③ 各拠点におけるコミュニティビジネスの取組み

拠点	イベント
北沢	・手作り市 ・ビューロー秋バザー ・お得市
玉川	・玉川ボランティアビューローバザー ・玉川ボランティアビューローバザー後売り
烏山	・烏山もったいないバザール ・烏山地域蘆花まつり

*北沢ボランティアビューローは改修工事のため、手作り市、ビューロー秋バザー、お得市は2025年度休止

(詳細は資料編 p.34 参照)

7 せたがやチャイルドラインの取組み

(1) 重点目標

- ・広報物の工夫やイベントの参加、他団体との連携等を通じ、子どもが安心して話ができることを広く伝える。
- ・子ども自身が考え、解決していけるよう、子どもの気持ちを受けとめる活動の継続と人材育成を図る。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① 子どもの声を聴く活動

18才までの子どもがかける専用電話とオンラインチャットで子どもの声に耳を傾け、子どもの気持ちを受けとめる「せたがやチャイルドライン」事業を実施した。

ア. せたがやチャイルドラインの実施

水曜日と土曜日の16時～21時に、せたがや専用回線の有料ダイヤル(03-3412-4747)と全国共通フリーダイヤル(0120-99-7777)の2回線で、ボランティア(受け手)が子どもからの電話を受けた。オンラインチャット(全国共通)で子どもの気持ちを受けとめる活動も月2～3回(第2、3、5金曜日)実施した。
(着信件数等は資料編 p.35 参照)

イ. 子どもたちへの広報

「せたがやチャイルドライン」の存在を子どもたちに伝えるため、区内児童生徒に情報提供を行った(小学校は1・3・5年、中学校・高校は1・3年 約7万部)。

■配布時期・配布物

- ・4月配布(新学期) せたがやチャイルドラインオリジナルで作成した広報紙「ちゃ～ら」
- ・7月配布(夏休み前) 電話番号等を記載したカード

■配布先

- ・区立小中学校90校、国立・私立の小中学校・高校、特別支援学校
- ・ほっとスクール、フリースクール
- ・図書館等公共施設

② 参加の輪を広げる活動

せたがやチャイルドラインを地域の多くの大人に知っていただき、チャイルドラインの活動を支援してもらえるような様々な関わりの場や機会を提供した。

ア. チャイルドラインサポーター活動の推進

- ・発送作業、ものづくりやイベント出店時の値付けなど様々なボランティア活動への参加の機会をつくり、電話の受け手以外にもチャイルドラインを応援する活動を推進した。
※ものづくりボランティア 4グループ、個人6名
- ・ニュースレターを通じて寄付の呼びかけを行い、せたがやチャイルドラインを応援する寄付者の拡大を図った(寄付者には返礼品を送付)。

イ. リーフレットやニュースレターの発行・配布

せたがやチャイルドラインの活動を紹介するためのリーフレットを年度ごとに更新するとともに、「セボネ」2025年3月号(チャイルドライン特集記事)及びチャイルドラインへの支援を求めるフライヤーを関係先に配布した。

活動を報告するニュースレターを2026年3月に発行し、地域連携事業やイベント等の際に配布した。

③ 人材養成と研究活動

子どもの声を聴く受け手について、オンラインチャット受け手を含めて養成を進めるとともに、受け手のスキルアップに向けた研修に加え、コロナ禍後久々に「支え手集中研修」を合宿形式で再開して支え手としてのかかわりのスキルアップの機会とするなど、人材の育成と活動の充実を図った。
(開催実績等は資料編p. 35-36参照)

④ ネットワーキング活動

子どものためのネットワーク構築に向け、全国及び近隣の関係機関とのパートナーシップを深めた。

ア. 全国のチャイルドラインとの協働

全国フォーラムやキャンペーンへの参加、認定NPO法人チャイルドライン支援センターや全国各地のチャイルドラインとの情報交換、協働を図った。

イ. チャイルドライン東京ネットワークへの参画

首都圏でチャイルドラインの活動を行う団体との連携を図り、共同で実施するチャイルドラインカード配布事業「東京キャンペーン」に参加した。

ウ. 関係機関との連携

ホームページやイベント等の機会を活用して、子ども・若者に関わる個人や各種関係機関との連携を図った。

⑤ 組織の運営活動

2024年2月から改めた運営体制により、運営委員会、講座検討委員会、メンバー全員による「全体会議」など各種会議を開催し、せたがやチャイルドラインの組織運営を担った。

2024年度にメンバー全員を対象に行ったアンケートの結果をもとに、2025年5月31日の全体会議で話し合いを行った。
(開催実績等は資料編p. 37参照)

⑥ 企画・販売活動

「つくる」「売る」「買う」、様々なボランティアの協力で、バザーや手づくり品の販売を行い、資金確保に努め、せたがやチャイルドラインの更なる周知を図った。

ア. チャイルドラインショップの運営

世田谷ボランティアセンター内のチャイルドライン常設ショップ、世田谷美術館、世田谷文学館のミュージアムショップ、世田谷パブリックシアターでの主催公演において、手づくりボランティアによるグッズの販売を行った。

また、世田谷ボランティアセンターのチャイルドライン常設ショップでは、売り上げの一部を寄付いただいている福岡県八女市の物産品を販売するコーナーを設けている。

イ. 各種イベントへのバザー出店

区内で開催されるイベントに出店し、せたがやチャイルドラインの活動を広報するとともに、事業資金の確保に努めた。おたがいさまフェスタ(4月)、烏山もったいないバザール(5月)、雑居まつり(10月)、ごきんじょ市(11月)、ボロ市(2026年1月)のイベントに出店した。

ウ. 寄付募集の強化

協会全体の寄付募集強化の取組みの一環として、クレジットカード等からの寄付を可能としたことを契機に、新たに作成したチャイルドラインへの支援を求めるフライヤー(2025年3月作成)を地域連携事業やイベント等の際に配布し、これまで以上に幅広く協力を呼びかけた。

8 成果と今後の課題

協会中期計画(2024~27年度)の重点事業に位置づけた「ボランティア情報ガイド『おたがいさまbank』とボランティアマッチングの充実」の実現に向け、地域に根ざして活動団体等との連携と交流を推進した。この間の取組みをさらに進め、「おたがいさま」の気持ちを大切にすボランティア活動を通じた地域づくり、安心して暮らしていけるまちづくりへの貢献をめざしていくことが重要である。

地域におけるボランティア相談・活動の拠点として、砧ボランティアビューロー準備室開設(2020年6月)、北沢ボランティアビューロー開設(2022年12月)、烏山ボランティアビューロー開設(2023年4月)により、区内5地域での活動拠点整備の効果が表れている。中でも北沢ボランティアビューローは区の改修工事により照明・空調などが一新され、大きく環境改善が図られた。一方、砧ボランティアビューローは準備室として発足以来、会議室を持たないことによる活動の制約が大きく、会議室を有する本設化に向け関係方面への働きかけを引き続き進めていく必要がある。

ボランティアコーディネイト事業については、マッチング率を算出・公表することにより、ボランティアを必要とする方と、活動への意欲を持つ方の双方にとって相談へのインセンティブとなることが期待され、今後も継続的に公表していくことが重要である。ボランティア学習については、連携先の理解と協力を得ながらボランティア活動や体験の対象者や受入先の拡充を図るなど、学習機会の充実やコーディネイトを引き続き積極的に進めていく必要がある。

情報誌「セボネ」はボランティア・市民活動推進第1部関連の記事が主体になっているが、協会で行っている様々な活動の紹介も充実させるとともに、協会としての広報体制を刷新する必要がある。

協会の活動継続には運営を支える資金確保も重要であり、2024年度に協会の規程を整備してクレジットカードからの寄付を可能としたことを契機に、2025年3月に作成した世田谷ボランティアセンター及びせたがやチャイルドライン専用のフライヤーを活用し、幅広く寄付を呼びかけていく。

せたがやチャイルドラインについては、2024年からの運営改善の成果を活かし、子どもからの声が電話からオンラインチャットにシフトする傾向に対応し、受け手養成研修を引き続き進めるなど、オンラインチャットに対応する体制充実を図ることが重要である。

事業体系が細分化されており、より実態に見合ったものに改める観点から、2025年度中に行った見直し検討の内容を2026年度事業計画に反映させる必要がある。

9 職員体制

(1) ボランティア・市民活動推進第1部 職員体制

	常勤	臨時
部長	1名	
世田谷ボランティアセンター	3名	11名(兼務2名)
北沢ボランティアビューロー		5名
玉川ボランティアビューロー		6名
砧ボランティアビューロー準備室		4名
烏山ボランティアビューロー		4名

(2026年3月31日現在)

(2) 職員研修

① 内部研修等の実施・参加

年間プログラムを「会議」「課題の共有・ふりかえり」「研修」の3区分に整理して年度当初の会議で確認し、ボランティア相談やコーディネイト等の業務に必要な知識やスキルを習得するため必要な研修等を行った。(詳細は資料編p.37参照)

② 外部研修への参加

ボランティアコーディネーションや福祉サービスに関する研修等に参加し、情報収集や関係機関との連携を図った。

*ボランティア・市民活動推進第1部の実績データは以降に掲載

■ボランティア相談受付件数 (2025 年度実績)

○全拠点合計のマッチング率

ボランティア 依頼件数(A)	Aのうち取下げ となった件数(B)	実際の活動募集 件数(A-B)	活動成立件数 (C)	マッチング率 (C / A-B)
171	36	135	106	78.5%

①世田谷ボランティアセンター

		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
ボランティアしたい	計	100	37	81	30	248
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	0	0	1	1	2
	子どもサポート(学習支援以外)	1	4	0	2	7
	傾聴	3	2	0	3	8
	生活サポート	3	4	1	3	11
	団体・グループ支援	1	0	1	1	3
	その他	1	2	1	0	4
	計	9	12	4	10	35
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	1	2	1	0	4
	物品提供	40	28	103	64	235
	情報求む	2	2	1	3	8
	その他	0	0	0	0	0
	計	43	32	105	67	247

②北沢ボランティアビューロー

		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
ボランティアしたい	計	16	5	6	2	29
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	0	0	0	0	0
	子どもサポート(学習支援以外)	0	0	0	1	1
	傾聴	5	1	0	0	6
	生活サポート	8	0	5	1	14
	団体・グループ支援	1	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0
	計	14	6	5	2	22
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	8	3	1	0	12
	情報求む	1	1	0	1	3
	その他	0	0	0	0	0
	計	9	4	1	1	15

■ボランティア相談受付件数（2025年度実績）

③玉川ボランティアビューロー

		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
ボランティアしたい	計	31	31	16	108	186
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	5	1	0	0	6
	子どもサポート(学習支援以外)	3	0	1	3	7
	傾聴	1	3	1	2	7
	生活サポート	2	1	2	3	8
	団体・グループ支援	0	0	0	0	0
	その他	1	5	2	0	8
	計	12	10	6	8	36
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	0	0	0	0	0
	情報求む	3	0	5	4	12
	その他	1	2	2	0	5
	計	4	2	7	4	17

④砧ボランティアビューロー準備室

		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
ボランティアしたい	計	19	10	20	19	68
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	1	0	1	0	2
	子どもサポート(学習支援以外)	2	0	1	1	4
	傾聴	7	3	1	1	12
	生活サポート	4	2	1	1	8
	団体・グループ支援	0	3	0	0	3
	その他	0	1	1	1	3
	計	14	9	5	4	32
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	0	0	0	0	0
	情報求む	31	26	15	20	92
	その他	1	0	0	0	1
	計	32	26	15	20	93

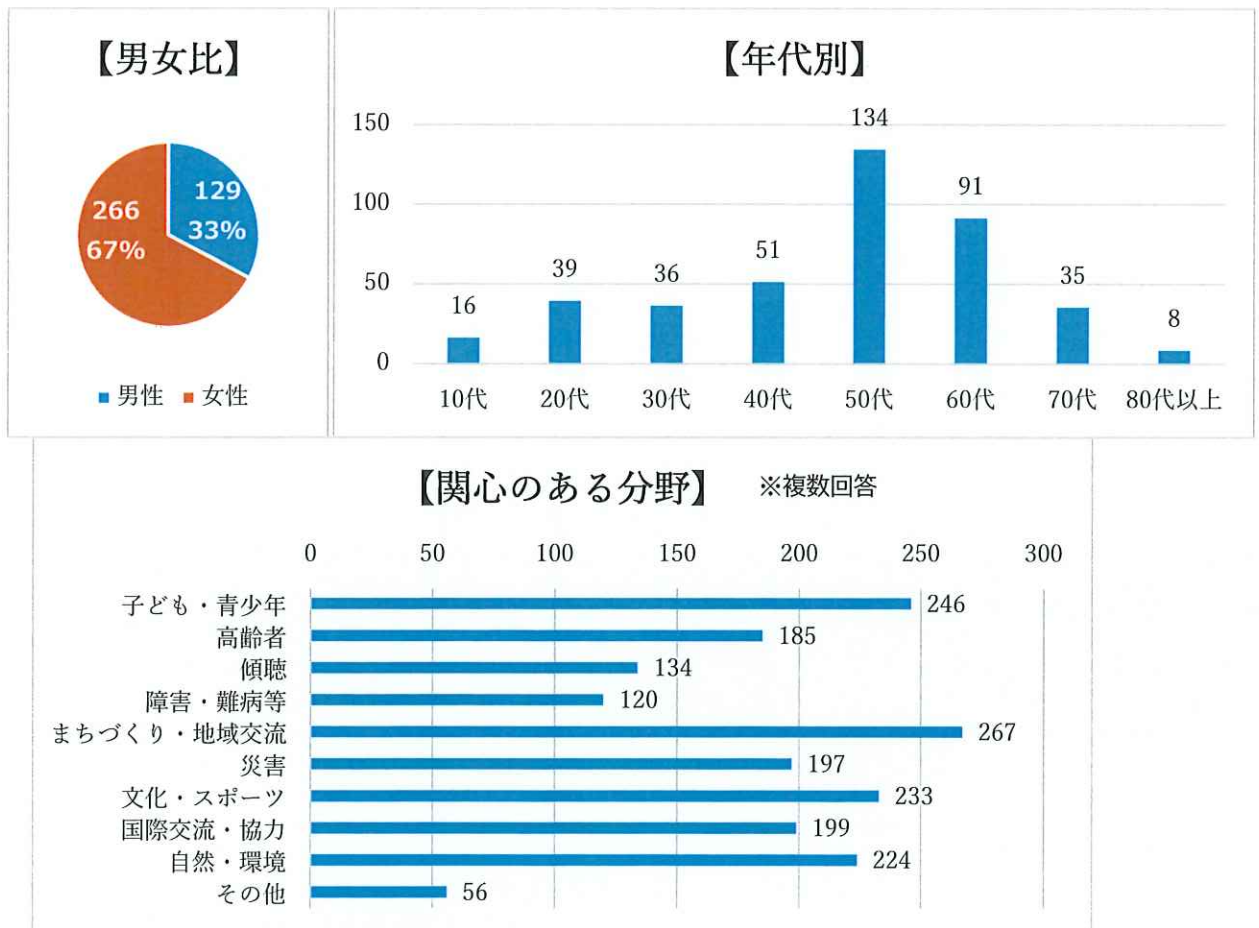
■ボランティア相談受付件数（2025年度実績）

⑤烏山ボランティアビューロー

		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
ボランティアしたい	計	47	22	25	14	108
ボランティア求む	子どもサポート(学習支援)	1	1	0	1	3
	子どもサポート(学習支援以外)	3	4	2	1	10
	傾聴	3	3	2	0	8
	生活サポート	12	4	8	4	28
	団体・グループ支援	3	1	0	1	5
	その他	1	1	3	4	9
	計	23	14	15	11	63
ボランティア求む 以外の相談	講師依頼	0	0	0	0	0
	物品提供	0	1	1	0	2
	情報求む	17	6	5	5	33
	その他	0	0	0	0	0
	計	17	7	6	5	35

■おたがいさま bank

【登録者男女比・年代比】（2026年3月末時点）*性自認・誕生年は本人申告によるため総数は一致しない



■AI システムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）（2025年度実績）

【年代別登録者数】（累計）

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明	計
登録者数	44	117	136	134	216	137	91	11	2	10	898

【ボランティア募集案件及びマッチング件数】（募集記事掲載時点でカウント）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
募集案件数	5	25	11	9	13	16	12	9	10	6	16	8	140
マッチング件数	6	3	1	1	1	0	1	1	0	3	1	2	20

【区民・事業者向けセミナー】

「ボランティアセミナー&相談会」

- ・実施日・場所：7月5日(土) 成城ホール
- ・講師：JCA千歳船橋、課外のあらいぐま、近藤浩紀(世田谷ボランティア協会)
- ・参加者：27名

■市民活動・NPO相談件数（2025年度実績）

【団体種類別件数】

月	任意団体	NPO法人	その他	個人	合計
4-6	5	6	2	4	17
7-9	5	7	1	6	19
10-12	3	1	0	2	6
1-3	4	4	1	2	11
計	17	18	4	14	53

【相談内容種別件数】

ア 一般相談

月	任意団体の 立ち上げ・運営	NPO法人の 設立	NPO法人の 運営	認定NPO	合計
4-6	10	0	6	0	16
7-9	7	1	8	0	16
10-12	4	1	1	0	6
1-3	5	0	4	0	5
計	26	2	19	0	43

イ 専門相談

月	運営実務 (法務)	運営実務 (会計・税務)	運営実務 (労務)	合計
4-6	0	1	0	1
7-9	0	2	0	2
10-12	0	0	0	0
1-3	1	1	0	2
計	1	4	0	5

■企業のフードドライブ活動と活動団体のマッチング協力（2025年度実績）

期間	回収回数	回収量	内容
2025年4月～9月	30回	204.0kg	お菓子、レトルト食品、缶詰等
2025年10月～2026年3月	20回	243.4kg	お菓子、レトルト食品、缶詰等
計	50回	447.4kg	

*集計は半期単位で実施

【関係者及び役割分担】

関係者	主な役割
株式会社 ファミリーマート	・指定の店舗にボックスを設け、家庭で余剰になった食品を受付、保管 ・団体へ食品を引き渡し（月1回程度）
世田谷 ボランティア協会	・こども食堂などを展開している団体を紹介 ・団体の実施報告書を取りまとめ、ファミリーマート本部に提出
団体* （こども食堂等）	・食品を指定のファミリーマート店舗で受取り、活動に有効活用 ・実施状況を報告（半年に1回程度）

*せたがや子どもバル缸、ぬくぬくハウス、コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ

■市民活動・NPO相談事業（2025年度実績）

【市民活動・NPO応援セミナー】

実施日・場所	テーマ・内容	参加者数
2025年9月13日(土) 世田谷ボランティアセンター	「活動の始め方と仲間づくり」 講師 森 玲子 氏 (東京ボランティア・市民活動センター相談員)	15名
2026年3月14日(土) 三茶しゃれなあどホール	「活動の先輩から学びませんか」 事例報告 花たまり(烏山ボランティアビューロー) 銀雄クラブ(玉川ボランティアビューロー)	20名

■傾聴ボランティア（2025年度実績）

【講座】（全5回）

会場	実施日	参加者数
玉川ボランティアビューロー	6月11日、18日、25日、7月9日、16日	12名
成城まちづくりセンター	9月24日、10月1日、8日、22日、29日	14名
世田谷ボランティアセンター	2026年2月6日、13日、20日、27日、3月6日	14名

【学習会】

会場	実施日	参加者数
玉川ボランティアビューロー	5月28日、7月23日、9月24日、11月26日、 2026年1月28日（全5回）	延べ32名
成城まちづくりセンター	5月13日、21日、7月8日、16日、9月9日、17日、 11月11日、19日、2026年1月13日、21日（全10回）	延べ50名

【交流会】

会場	実施日	参加者数
世田谷ボランティアセンター	2026年3月18日	29名

■ボランティアビューローの取組み

【北沢ボランティアビューロー】

・はじめカフェ（ボランティアオリエンテーション）

内容 活動グループの内容説明、実際の活動内容見学
 （改修工事のため 2025 年度休止）

・ぷらっと

気軽に立ち寄れる地域の居場所にしてもらえるよう、使用済み切手の整理というちょっとしたボランティア活動を、出入り自由でできる場を設けた（月 2 回 事前申込制）。

月	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
延べ参加者数	29 名	22 名	6 名	5 名	62 名

・北沢ビューロー ご近所カフェ ～「こんにちは」を始めませんか～

地域の方々の憩いの場となることを目指し、思い出の歌と一緒に歌う、ポッチャ体験など月替わりのお楽しみ企画を実施し、気軽に館内に入ってもらえるオープンスペースを設けた（月 1 回）（改修工事中は休止）。

月	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
参加者数	8 名	12 名	（改修工事）	（改修工事）	20 名

・てしごとカフェ

地域の人たちに特技や興味を活かしたボランティア活動への参加の場を提供し、参加者のアイデアやデザインでバッグや布小物等のオリジナルグッズを作成する。2025 年度は改修工事のため中止。

・認知症マフ（ケアマフ）をつくろう

広く認知症マフを知ってもらうことを目標に月 1 回開催し、参加者同士の交流を図る。
 9 月以降は改修工事に伴い、別会場にて自主グループとしての活動を試行した。

月	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
延べ参加者数	36 名	42 名	35 名	46 名	159 名

【玉川ボランティアビューロー】

・チーム子どもサポート

子どもへの個別支援ニーズに対応するボランティアの育成を目的に、勉強会の実施や活動のフォロー、関連機関との関係づくりを図った。

若者編「チーム子どもサポート」（30 才未満）は北沢ボランティアビューロー、国士舘大学にて 2 回実施、シニア編「子どもサポート フォローの会」（年齢制限なし）は玉川ボランティアビューローにて 3 回実施した。

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	計
若者編	実施なし	15 名	7 名	実施なし	22 名
シニア編	3 名	9 名	実施なし	1 名	13 名

【玉川ボランティアビューロー】(続)

・遊ぼう会

支援の必要な子どもとご家族の居場所、ボランティアが障害児(者)とかかわるきっかけやスキルアップの機会として、外遊び、臨床美術、ジェスチャーゲームや、夏まつり、ハロウィン、クリスマス、お正月など季節ごとの遊びを、ボランティアグループ『ういきゃん』と共催で企画・実施した(月1回)。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	17名	8名	6名	-	28名	14名	5名	3名	20名	8名	-	7名	116名
ボランティア	4名	8名	3名	-	15名	2名	2名	3名	11名	5名	-	-	53名

*7月は夏まつりのため、また2月はバザーのため開催せず。

・子どもに寄り添うボランティア講座(学習サポート編)

子どもとかかわる楽しさを体験し、喜びを分かち合う時間を共有するボランティアを養成する目的で、連続講座とボランティアオリエンテーションを区と共催で実施した(延べ36名参加)。

日程	主な内容	協力者
5月29日(木)	世田谷区の障害児支援について ボランティアについて	世田谷区障害保健福祉課
6月12日(木)	講義とワーク 「発達障がいってなに？」	NPO 法人東京都自閉症協会副理事長 尾崎 ミオ氏
6月26日(木)	講義とワーク 「子どもとかかわるときに」	世田谷区教育委員会 教育相談専門指導員 森田 規子氏
7月10日(木)	ボランティアオリエンテーション	学習支援のボランティア活動経験者

・子どもサポート講座フォローアップ

子どもとかかわるボランティア講座の修了者、また、すでに子どものサポートを行っているボランティアを対象とした学習会。10月に1回実施した。

開催日 2025年10月30日 講師：安心ネットせたがや(世田谷区手をつなぐ親の会)
「知的障がい疑似体験～体験しながら知的障がいを理解しよう～」 参加者7名。

・玉川ボラカフェ

ボランティア活動に興味はあるが、なかなか一歩が踏み出せない人や、地域と関わる機会がほしい人のために居場所を提供した。作ったものは、ビューローの常設バザーで販売。

4月は花みず木フェスティバルで、作品販売と子ども向けのワークショップを開催した。

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	計
参加者数	15名	15名	17名	21名	68名
販売額	7,385円	6,900円	26,530円	8,570円	49,385円

・利用者交流会

玉川ボランティアビューローで活動している方たちが交流することで、相互理解を深め、刺激を受け合い、ささえ合いの輪を広げることを目標に開催した。

開催日 2026年3月27日(金) 内容 団体ごとの活動紹介、活動上の工夫などのテーマでビューロースタッフも加わり話し合ってもらい好評だった。参加者22名(12団体)

【砧ボランティアビューロー準備室】

・おしゃべりサロン「きぬたまり」

地域での孤立・孤独解消を目的に、誰でも参加できる場として、人と話す機会の少ない人や、誰かと話したい人が集う交流を行い、傾聴ボランティアの実践の場としてボランティアが参加する機会とした（毎月第2水曜日午後 実施場所 成城まちづくりセンター活動フロアー）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	6名	8名	-名	6名	9名	5名	-	-	5名	8名	-	2名	49名

*6、10、11月、2月は会場都合で実施せず

・「出張！チームOK」

ボランティアを求める子育て家庭が子育ての悩みなどを話ができる場を設けるため、烏山地域で活動している発達障害の子どもをもつ保護者の会「チームOK」に相談し、開催した。

8月26日（火）13:00～16:00 成城まちづくりセンター活動フロアー 参加者11名

10月25日（土）13:00～16:00 成城まちづくりセンター活動フロアー 参加者5名

・ボランティア交流会

趣味や特技をボランティア活動に活かすヒントを探ることをテーマにボランティア活動を始める人、ボランティアに来て欲しい団体をつなぐ交流会を行った。会場提供の協力を得て、楽器演奏者、お菓子作り、傾聴ボランティアなどが直接つながることができた。

開催日・場所：2月28日（土） 成城パティオ（機能訓練型デイサービス）

内容：活動や自己紹介、飲食をしながら交流、鍵盤ハーモニカ演奏

参加団体：えこひろば、JCA千歳船橋、Toy工房どんぐり、グラスホッパー、対話のカゼ

参加者：16名

【烏山ボランティアビューロー】

・はじめてのボランティア講座

ボランティアをしたいけれども、何からどう始めたらよいか迷っている人を対象に、福祉作業所職員の講義、喫茶びあスタッフによる事業の案内を通して、知的障害者の特性や接し方を学ぶ講座を行った。

開催日：6月21日（土） 参加者：9名 内容：知的障害のある方への支援

・ボランティア交流会

ビューローに登録のあるボランティアやこれから活動を始めたいと考えている人を対象に、情報交換や活動を通じての疑問点や課題を共有し、次の活動への意欲の醸成を図った。

開催日 2026年1月31日（土） 参加者：10名 内容：相談が多い知的障害児・者について相談支援専門員やご家族から、障害の特性や支援方法などについて学び、理解を深めた。

・使用済み切手整理ボランティア

使用済み切手の整理を通じて、ボランティア活動を行うきっかけづくりや高齢者や精神障害者の居場所づくりを図った（毎月第4水曜日午後実施）。

【新規】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	7名	6名	4名	4名	-	6名	4名	6名	2名	3名	7名	5名	54名

*8月は休止

・手芸クラブ TikuTiku 【新規】

人と交流の少ない方、とじこもりがちの方などが集い、手芸を通して交流し、ボランティア活動のきっかけづくりや外出の機会となる居場所づくりを図った（月1回木曜日午後実施）。

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	3名	5名	10名	4名	9名	7名	38名

■夏のボランティア体験「ナツボラ」(2025年度実績)

- ・対象：区内に在住・在学中・高・大学生及び30歳位までの青少年
- ・活動場所：区内福祉施設、NPO団体、ボランティアグループ等

	実施日	内容
受付、オリエンテーション	7/13、24、25、26	受付、オリエンテーション 会場：世田谷ボランティアセンター
ボランティア体験活動	7/20～8/31	参加者数 164名 参加延べ件数 184名 (内訳:中学生 110名 高校生 52名 大学生 2名 その他 0名) 活動先：99か所 (高齢者関係 15、障害者関係 26、子ども関係 54、その他 4)

(参考) 2024年度参加者数 178名、参加延べ件数 190名 活動先 86か所

■小学生向けプログラム「ナツボラ・ジュニア」(2025年度実績)

- ・対象：区内に在住・在学の小学生とその家族
- ・活動場所：区内福祉施設、NPO団体、ボランティアグループ等
- ・実施時期：7月下旬～8月末

拠点	参加者数	協力団体
世田谷ボランティアセンター	24名	手話サークル「輪の会」、下馬福祉工房、世田谷ボランティア協会職員
北沢ボランティアビューロー	40名	JCA 千歳船橋月曜クラス、JCA 千歳船橋木曜クラス、グルボ6(セイス)、てんとうむし、マハロ、レリーズ、世田谷録音奉仕グループひびき
玉川ボランティアビューロー	53名	博水の郷(高齢者施設)、ふたこde ネット、R.S.の会(リーディングサービス)、二子おもちゃ図書館ぽっぽ、ウエルケアガーデン深沢(高齢者施設)、世田谷区視力障害者福祉協会
砧ボランティアビューロー準備室	24名	砧ホーム(高齢者施設)、砧愛の園(高齢者施設)、まなびや砧デイサービス(高齢者施設)、祖師谷公園サービスセンター、ハーブ木曜友の会、祖師谷公園友の会ポピークラブ、世田谷希望丘ホーム(高齢者施設)
烏山ボランティアビューロー	15名	烏山福祉作業所、ぶんぶくテラマチ、アクティブかたらい、にじいろのたね(読み聞かせの会)
計	156名	25団体

■総合学習・奉仕体験活動等コーディネート(2025年度実績)

学校	実施日	内容	参加者数
昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科 1年生	4月23日(水)	ボランティアマナーとコミュニケーションについて	98名
産業能率大学 経営学部 1年生	10月17日(金)	社会貢献とボランティア活動	110名
弦巻小学校 4年生	2026年2月5日(木) 2月18日(水)	・車いす体験 ・車いすユーザーの講話	139名
計	3回		347名

■ボランティア情報誌「セボネ」

【編集会議】

編集委員(敬称略)	星野 弥生、佐藤 研資、市川 徹、花田 朋美、 松下 洋章、近藤 浩紀、中部 香世、鈴木 純子
編集会議開催日	2025年4月9日、5月7日、6月4日、7月8日、9月11日、10月7日 11月4日、12月4日、2026年1月6日、2月10日、3月10日

【「セボネ」発行】(2025年度実績)

発行月	誌面内容
4月号	<p>★特集：声を束ねて～福島に思いをこめて～</p> <p>★まちの市民力：～身近な自然科学を知ると毎日が面白い～ NPO法人Science and Art</p> <p>★せたがやキラリ人：浪江の写真を撮り続ける 大根 健一さん</p> <p>★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
5月号	<p>★特集：世田谷区子どもの権利条例～子どもの権利が当たり前保障される世田谷をめざして～</p> <p>★まちの市民力：～仲間とアルコール依存に向き合う～AA玉川グループ</p> <p>★せたがやキラリ人：協会からのお知らせ～ご寄付のお願い～</p> <p>★おたがいさまビュー：2025年度「せたがやチャイルドライン 公開講座」参加者募集、福祉車両ご寄贈のお礼、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
6月号	<p>★特集：ヒゲさんという生き方～ありがとう、ヒゲ！～</p> <p>★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p> <p>★ミニレポート：おたがいさまフェスタ2025大盛況のうちに閉幕、昭和女子大学で「ボランティアマナーとコミュニケーションについて」を講義</p>
7月号	<p>★特集：『自主ようちえん ひろば 50年の歩み』～みんなの子どもをみんなで育てる母たちのつながり～</p> <p>★まちの市民力：まほろばBASE</p> <p>★せたがやキラリ人：杉本 賢治さん</p> <p>★おたがいさまビュー：ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
8月号	<p>★特集：『遊べ! おとなたち～「冒険遊び場」「雑居まつり」「自主保育」とともに歩んだ50年』開催レポート</p> <p>★まちの市民力：～被災写真をボランティアの力で救う～ 課外のあらいぐま</p> <p>★地域障害者相談支援センターぽーとせたがや活動レポート：世田谷エリア自立支援協議会主催シンポジウムの報告</p> <p>★おたがいさまビュー： 【第一報】北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ <ミニレポート>世田谷区主催「ボランティアセミナー&相談会」に登壇しました！ ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
9月号	<p>★特集：「子どもの権利」への道～保坂展人世田谷区長は語る～</p> <p>★まちの市民力：～みんなで広げよう！あそびの輪～ 砧あそびの杜プレーパーク</p> <p>★せたがやキラリ人：住民自治は面倒くさくて超オモシロイ！ 荒木 直子 さん</p> <p>★おたがいさまビュー：北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ 【第一報】、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>

【「セボネ」発行】(2025年度実績(続))

10月号 災害特集号	<p>★特集：世田谷での災害ボランティアの活動拠点～マッチングセンターとサテライトの開設計画を進めよう～</p> <p>★おたがいさまビュー：北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ【第二報】、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
11月号	<p>★特集：デフリンピックを観戦しましょう！</p> <p>★せたがや災害ボランティアセンターレポート：区内で発生した大雨被害に伴う災害ボランティア活動中</p> <p>★おたがいさまビュー：北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ【第三報】、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
12月号	<p>★特集：手話言語で「夢」を届ける 手話パフォーマンス「きいろぐみ」の歩み</p> <p>★まちの市民力：～路上での表現に挑む～ 路上演劇祭Japan</p> <p>★せたがやキラリ人：雑居まつりに新しい風を吹かせたい 福重 佳代子さん</p> <p>★おたがいさまビュー：北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
2026年 1月号	<p>★特集：村瀬幸浩先生が話す ～人間の「性」は、人間の「生」～</p> <p>★まちの市民力：～ジェンダー視点の起業支援～ 一般社団法人イヴの木</p> <p>★せたがやキラリ人：～積極的に聴くことを味わう～ 山本 多賀子さん</p> <p>★おたがいさまビュー：北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
2月号	<p>★特集：3・11から15年目「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」まだまだ続けます！</p> <p>★せたがやキラリ人：～アンデスの風を日本に！～ 桑原 健一さん</p> <p>★せたがや災害ボランティアセンターレポート</p> <p>★おたがいさまビュー：好きなことをボランティア活動にするヒントをさぐる交流会を開催します、ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>
3月号	<p>★特集：防災シンポジウム 「災害時のトイレ問題を考える」</p> <p>★おたがいさまビュー：【市民活動・NPO】はじめの一步セミナーを開催します～活動の先輩から学びませんか？～ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ</p>



■電子媒体を活用した情報発信（2025年度実績）

【ホームページ】

月	投稿数		閲覧数		
	2025年度	前年度	2025年度	前年度	前年比
4-6	85	89	120,905	125,050	3%減
7-9	105	63	118,879	121,414	2%減
10-12	83	81	90,314	96,786	7%減
1-3	70	70	100,164	99,156	1%増
計	343	303	430,262	442,406	3%減

【Facebook】

時点	フォロワー数		閲覧数			
	世田谷ボランティア協会	せたがや災害ボランティアセンター	ボランティア協会		災害ボランティアセンター	
			2025年度	前年度	2025年度	前年度
6月30日	2,067	936	10,605	2,434	1,312	2,437
9月30日	2,064	945	7,680	2,921	8,679	1,059
12月31日	2,067	945	6,210	4,908	3,812	4,416
3月31日	2,068	946	4,244	5,842	4,494	4,148
計			28,739	16,105	18,297	12,060

【Instagram】

※2023年12月28日開設

月	フォロワー数		閲覧数	
	2025年度	前年度	2025年度	前年度
4-6	170	98	1,612	654
7-9	178	116	3,180	265
10-12	190	136	6,868	310
1-3	212	158	1,880	1,370
計			13,540	2,599

■ボランティア情報サイト「おたがいさま bank」を活用した情報提供（2025年度実績）

【新規登録者数】

月	新規登録者数	メールマガジン発行状況	*は臨時便
4-6	278名	4月11日、*26日、5月10日、6月7日	
7-9	51名	7月19日、8月20日、9月14日	
10-12	47名	10月18日、11月14日、12月16日	
1-3	39名	1月15日、2月20日、3月21日	
計	415名	12回+臨時便1回	

■会議室の提供（2025年度実績）

※人数・団体は延べ人数・団体数

①世田谷ボランティアセンター 場の提供実績

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
開所日数	74日	74日	76日	72	298日
利用人数	3,558名	3,019名	3,404名	3,537名	13,518名
利用団体	233団体	210団体	151団体	382団体	976団体

②北沢ボランティアビューロー 場の提供実績

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
開所日数	74日	69日	60日	58日	261日
利用人数	2,253名	885名	—	—	3,138名
利用団体	238団体	109団体	—	—	347団体

※9月19日より改修工事のため閉所した。梅丘分庁舎仮事務所の間は土曜日閉所とする。
また10月～3月改修工事のため会議室利用実績はない。

③玉川ボランティアビューロー 場の提供実績

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
開所日数	74日	72日	73日	69日	287日
利用人数	2,075名	1,778名	2,097名	2,045名	7,995名
利用団体	176団体	164団体	169団体	146団体	655団体

④砧ボランティアビューロー準備室 開所実績

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
開所日数	74日	72日	73日	69日	288日

※会議室スペースがないため、会議室利用実績はない。

⑤烏山ボランティアビューロー 場の提供実績

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
開所日数	74日	72日	73日	69日	288日
利用人数	166名	188名	210名	130名	694名
利用団体	24団体	32団体	42団体	26団体	124団体

■みんなの居場所しもうま（2025年度実績 予定含む）

①しもうまボランティア

月	参加人数
4-6	37名
7-9	71名
10-12	107名
1-3	109名
計	324名

②しもうまスチューデントクラブ

月	参加人数
4-6	6名
7-9	12名
10-12	—
1-3	—
計	18名

③うまうま食堂

日時	参加人数
—	—
9月17日	21名
12月17日	33名
3月25日	22名
計	66名

■他団体と連携した事業の開催、参加、出展(コミュニティビジネス事業含む) (2025年度実績)

事業名	日時・場所	内容・来場者の反応
おたがいさま フェスタ 2025	2025 年 4月19日(土) ボランティア センター周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・下馬団地整備工事の進捗に伴い、地元の理解を得て団地集会所前の広場も会場として開催した。 ・能登半島地震をきっかけに地域の絆を深めることを目的に、防災イベント、バザー、ステージプログラム等を実施し、下馬2丁目北町会をはじめケアセンターふらっと、下馬福祉工房等、地元で活動する様々な団体と連携して、地域とボランティアをつなぎ、交流できる場となった。 ・ケーブルテレビの取材もあり、同時開催のリサイクル市とともに、多くの方に楽しんでいただくことができた
居場所サミット	4月20日(日) 生活工房	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川ボランティアビューロー事業“遊ぼう会”が第1回からブース出展していたが今回はスケジュールの都合がつかず、ボランティア・市民活動推進部長が出席、資料提供して参加団体との交流を図った。
花みず木フェ スティバル	4月29日(祝) 兵庫島公園	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川ボランティアビューローがブースを出展し、協会の活動PR等を行った。
烏山もったいな いバザール 2025	5月25日(日) 烏山区民センタ ー前広場	<ul style="list-style-type: none"> ・烏山地域を中心に活動している施設やボランティアグループが集まり、「もったいない」をテーマにバザーや手作り品の販売を行った。 ・参加団体が増え、相互のつながりづくりにも寄与した。
ふるさと区民 まつり	8月2日(土)、 3日(日) JRA 馬事公苑	<ul style="list-style-type: none"> ・従前行ってた子ども向けプログラムは酷暑を考慮して実施せず、協会のPRを行い、熱中症対策を講じながら事故なく終えることができた。 ・これに伴い、従来参加を得ていた夏のボランティア体験「ナツボラ」中学生、大学生、社会人などのボランティアは参加せず協会職員のみで実施した。
下馬2丁目北町 会盆踊り大会	8月2日(土)、 3日(日)こども のひろば公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター地元の夏祭りに参加し、ぬりえ、アクアビーズすくいとソーセージの販売を行った。
雑居まつり	10月12日(日) 羽根木公園	<ul style="list-style-type: none"> ・今回で第50回となる。協会PRコーナー、チャイルドラインの手作り品や福岡県八女市の物産販売を行った。 ・せたがや災害ボランティアセンターがマンホールトイレの実演と防災クイズを行った。 ・実行委員会に参加し、多様なボランティア・市民活動団体との連携の機会とした。
烏山地域 蘆花まつり	10月26日(日) 都立蘆花恒春園	<ul style="list-style-type: none"> ・絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆の一員として、烏山地域最大の地域イベントである蘆花まつりにブース出展し、烏山ボランティアビューロー及びせたがや災害ボランティアセンターの周知と協会の活動PRを行った。

■他団体と連携した事業の開催、参加、出展(コミュニティビジネス事業含む) (2025年度実績)

事業名	日時・場所	内容・来場者の反応
ごきんじょ市	11月15日(土) 三茶ふれあい広場	<ul style="list-style-type: none"> 福祉事業部と協働して、大学生などのボランティアや福祉施設等のコーディネートを行った 当日はごきんじょ情報コーナー(協会PR)やせたがや災害ボランティアセンターの防災クイズ、てあみときっての会のニット作品販売、チャイルドラインの手作り品や八女の物産品販売を行った。
ボロ市	2025年 12月15日(月) 16日(火) ボロ市通り	<ul style="list-style-type: none"> ボロ市のうち2日間に参加し、代官屋敷前(ボロ市通り中央)のブースで、手づくり品や中古衣料などの雑貨やチャイルドラインの八女物産品を販売するとともに協会PRを行った。
生涯現役フェア	2026年 1月18日(日) 北沢タウンホール	<ul style="list-style-type: none"> 生涯現役ネットワーク(ボランティア協会も一員)の会議に参加するとともに、「生涯現役フェア」にブース出展し、北沢ボランティアビューロー、災害ボランティアセンターの活動PR等を行った。
梅まつり	2月15日(日) 羽根木公園	<ul style="list-style-type: none"> 北沢ボランティアビューローの「てしごとカフェ」の手作り品を販売するとともに、協会PRを行った。
リサイクル市	3月14日(土) ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> 提供品の回収や仕分け、当日の受付や誘導対応などにボランティア団体の協力を得て開催した。
極楽フェス	4月25日(土) ボランティアセンター及び周辺施設	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の社会福祉法人の施設と世田谷パブリックシアター、下馬図書館との合同でイベントを行う(予定)。各施設を知ってもらう機会とするとともに、準備の過程で各団体を互いに知り交流する場ともなっている。 今回から、ボランティアセンターも下馬あんしんすこやかセンターとともに共同で事務局機能を担っている。 本年度は、4月開催に向けた準備及びイベント等を行った。

■せたがや学生ボランティアネットワーク運営支援（2025年度実績）

【ネットワーク参加団体】（6大学14団体）

大学	団体名
国土館大学	児童教育研究会
駒澤大学	駒澤大学ボランティアサークル、駒澤大学学生赤十字奉仕団
昭和女子大学	ボランティア委員会
テンプル大学	TUJ COSA
日本大学	学生国際ボランティアグループ Salamat “A”、学生有志団体 Sakura
明治大学	心身障害者福祉社会しいの実、のえる、ぱれっと、Relief、SHIP
国際ボランティア学生協会 (IVUSA)	IVUSA 東京砦クラブ、IVUSA 東京世田谷クラブ

【ネットワーク会議及びフォーラム開催】

職員・スタッフ体制：各回2～4名

実施日	内容	学生参加者数
5月23日	第1回ネットワーク会議(オンライン)	5大学 10団体 15名
7月2日	第2回ネットワーク会議(北沢タウンホール)	4大学 8団体 20名
9月5日	第3回ネットワーク会議(北沢タウンホール)	5大学 9団体 17名
10月4日	学生ボランティアフォーラム(北沢タウンホール)	5大学 12団体 45名
2月24日	第4回ネットワーク会議(北沢タウンホール)	4大学 8団体 22名
	計(延べ人数・団体数)	6大学 14団体 延べ119名

【学生団体の地域活動コーディネート】

ネットワークに参加している学生団体と区、ボランティア協会、地域活動団体等が連携して様々な活動を行うにあたり、協会がコーディネートしたケースのみ記載する。

活動名・連携先	学生団体	月日・場所・主な活動内容
アドベンチャーin 多摩川いかだ下り大会	駒澤大学ボランティアサークル	8月30(土)・31(日)多摩川河川敷 小中学生対象のいかだ下り大会の会場設営、会場警備
ごきんじょ市	駒澤大学学生赤十字奉仕団 駒澤大学ボランティアサークル 昭和女子大学ボランティア委員会 日本大学学生有志団体 Sakura	11月15日(土)三茶ふれあい広場 事前準備(ゲーム備品作成、高齢者施設で参加賞の折り紙作り)、当日の運営(子ども向けゲーム、模擬店)
ALL TOGETHER FESTIVAL 2026	学生ボランティアサークル Salamat “A” (日本大学文理学部) SHIP (明治大学) 駒澤大学学生赤十字奉仕団	1月18日(日)渋谷ストリームホール NPO 法人児童夢基金のブースにてゲーム担当 各団体の活動発表
世田谷エリア自立支援協議会「みんなのよりどころ」	TUJ COSA (テンプル大学)	3月4日(水)世田谷ボランティアセンター 障害者、高齢者の居場所づくりイベントの運営(パンケーキ作り、飾り付け手伝いなど)

■世田谷区 採用1年目「障害福祉体験」研修（2025年度実績）

期間 : 9月30日～11月11日（全13回）
 研修生 : 350名
 講師 : 障害当事者
 職員体制 : 各回5名（合計9名）程度
 会場 : 世田谷区立教育総合センター会議室及び周辺の公道

■インターンシップの受け入れ（2025年度実績）

実施日	内容	日数	人数
7月31日(木)～9月6日(土)	産業能率大学 インターンシップ受け入れ	10日間	1名

■各拠点における地域パートナーシップの取組み（2025年度実績）

【世田谷ボランティアセンター】

- ・世田谷地域ケア連絡会 4月30日、9月12日、11月12日、
2026年2月24日、3月17日 世田谷総合支所
- ・三宿・池尻まちこま会 7月29日 池尻まちづくりセンター
- ・太子堂生涯学習セミナー 10月23日 太子堂区民センター
（講師）

【北沢ボランティアビューロー】

・梅丘地区見守りネットの会

梅丘地区社会福祉協議会と町会・自治会、民生委員、梅丘まちづくりセンター、北沢ビューローも含めた地域施設が参加し、地域で孤立させない、見守り、助け合いのまちづくりを進めた。

- 5月8日 第1回連絡委員会 基本目標の確認
- 11月27日 第2回連絡委員会 地域支えあい講座開催の確認
- 2月13日 地域支えあい講座「大人の発達障害について学ぶ」に参加

・梅丘地区防災塾

- 12月13日 第1部 講演「持続可能な地域コミュニティの在り方を考える」
- 第2部 ワークショップ「安全・安心な梅丘にするには」について、国士館大学の学生と共にグループで話し合いながらすごろくを作成した。

- ・経堂地域包括ケア会議 1月27日
- ・経堂地域ボランティア交流会 2月2日

【玉川ボランティアビューロー】

・発達障害・障害児サポート情報共有会（前期・後期）

発達障害者と障害児のサポートにかかわる区の担当者、講座講師、国士館大学の教員、小児科医師が参加し、現状報告、情報・意見交換を実施。協力体制により、協会事業の企画やボランティア養成と地域のニーズ対応に活かされている。

- 前期 9月4日 外部9名 協会職員7名
- 後期 3月27日 外部7名 協会職員6名

■各拠点における地域パートナーシップの取組み (2025 年度実績)

【玉川ボランティアビューロー】(続)

- ・ 発達障害関連団体との連絡会 6月18日 成城ホール
3月12日 発達障害相談・療育センター「げんき」
- ・ 用賀地区四者連携会議 4月16日、5月21日、6月25日、7月23日、9月17日、
10月22日、11月19日、12月17日、1月21日、2月18日、
3月18日 用賀まちづくりセンター
- ・ 二子玉川100年懇話会 4月7日、10月6日、12月1日 2月2日 玉川町会会館
- ・ 二子玉川地域ケア会議 2月26日 二子玉川あんしんすこやかセンター
- ・ 上野毛いきいき講座 2月26日 上野毛あんしんすこやかセンター
- ・ 社会福祉協議会運営委員会 7月1日、3月30日 二子玉川まちづくりセンター
- ・ 新年賀詞交歓会 2月5日 アレーナホール
- ・ 二子玉川地区三者ボランティア座談会 3月23日 二子玉川まちづくりセンター
- ・ チームささえあい用賀座談会(経験者) 10月28日 用賀まちづくりセンター
(未経験者) 2月3日 衆議院選挙のため中止

【砧ボランティアビューロー準備室】

・ ご近所フォーラム実行委員会への参加

住みやすい地域づくりに向けた「砧地域ご近所フォーラム」を実施するため、砧地域における医療と福祉等の関係者で構成された実行委員会にメンバーとして参画した。

2025年4月28日、5月26日、6月23日、8月25日、10月27日、1月26日、2月16日
2026年3月14日 第15回砧地域ご近所フォーラム2026(成城大学)

- ・ 砧地域ケア連絡会 5月21日、6月18日、9月17日、10月15日、11月18日
12月17日、1月21日、2月16日、3月18日 砧総合支所
- ・ 成城地区版地域ケア会議 6月27日、8月20日、10月30日、1月16日
- ・ 祖師谷地区版地域ケア会議 1月19日

【烏山ボランティアビューロー】

・ 絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆

地域共生社会の実現に向け、烏山地域の区民、事業所等が参加し共に支え合う組織のメンバーとして会議や事業に参加した。

6月13日、2月13日 運営委員会 烏山総合支所

12月12日 烏山交流・名刺交換会(拡大版地域ケア会議) 烏山区民センター

- ・ 烏山地域版地域ケア会議 5月30日、9月5日(※台風のため中止)、
10月24日、3月6日 烏山総合支所
- ・ 烏山合同包括ケア会議(いきいき講座) 10月28日
- ・ 烏山エリア自立支援協議会全体会 11月21日 テーマ「ぴあサポーターを知る」
- ・ 烏山エリア自立支援協議会運営会議
4月28日、5月26日、6月23日、7月28日、8月25日、9月22日、10月27日
11月17日、12月22日、2026年1月26日、2月16日、3月23日 烏山総合支所
- ・ 要保護児童支援協議会 10月31日 烏山区民センター

■各拠点におけるコミュニティビジネスの取組み（2025 年度実績）

【北沢ボランティアビューロー】

・手作り市

ボランティアビューローで活動している7つの手作りグループのグループ紹介と、各グループ及びボランティア活動推進事業の資金調達を目的に、ビューロー改修工事前の4月12日(土)に開催した。

売上 約12,890円（てしごと作品の売上）

【玉川ボランティアビューロー】

・玉川ボランティアビューローバザー

地域の資源の再利用、ボランティア推進のための資金確保、ボランティア活動のきっかけづくり、玉川ボランティアビューローの周知を目的に実施。

2026年2月21日(土)開催 来場者202名、売上げ483,810円、ボランティア延べ134名

・玉川ボランティアビューローバザー後売り

資源の再利用と玉川ボランティアビューローの周知を目的に、バザーで売り切れなかった提供品の一部を1カ月程度フロアで販売した。

2026年2月24日～3月21日開催 売上げ137,370円

【烏山ボランティアビューロー】

・烏山もったいないバザール

烏山ボランティアビューローの地域に向けた周知を目的に、5月25日(日)に烏山区民センター前広場でバザーを開催した。

売上：16,950円

・烏山地域蘆花まつり

絆つながる地域包括協働体☆つなぐ烏山☆の一員としてブース出展し、烏山ボランティアビューローのPRとともにバザーを開催した。雨天にもかかわらず14,000人弱の参加があった。

売上：3,950円

■子どもの声を聴く活動

【年間着信件数（電話）】（過去3年度の実績）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2025	300	317	251	388	209	205	306	317	214	221	163	218	3,109
2024	238	251	348	183	208	275	312	252	215	257	287	245	3,071
2023	181	208	226	236	144	183	204	153	194	179	313	275	2,496
2022	161	251	313	171	332	307	270	213	179	288	177	210	2,872

【年間着信件数（オンラインチャット）】（過去3年度の実績）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2025	7	8	13	16	17	10	11	6	9	6	5	9	117
2024	0	0	29	12	8	4	3	4	15	11	5	8	123
2023	8	11	7	8	7	8	7	8	2	12	0	0	78
2022	26	15	12	15	13	22	6	10	9	6	9	24	167

■人材養成と研究活動

【公開講座】（2025年度実績）

- ・テーマ 今を生きるこども～知ってほしい子どもたちの現状～
- ・目的 せたがやチャイルドラインの活動を広く周知し、新規ボランティアを増やす機会とする
- ・内容 子どもに関する知識や心構えと姿勢
- ・参加者 32名
- ・各回の日程・テーマ・講師（場所：世田谷ボランティアセンターとオンライン）

No.	開催日	時間	テーマ	講師（敬称略）
1	5月10日 (土)	13:00- 15:00	「手に入りたい“まなざし” ～子どもの権利条約の具現化を目指して～」	西野 博之 NPO 法人フリースペースたまりば理事長
2		15:30- 17:30	「子どもへの眼差し」	伊藤 高章 上智大学グリーンケア研究所客員所員
3	5月24日 (土)	15:30- 17:30	「遊びのチカラ・子どもの今」	天野 秀昭 NPO プレーパークせたがや 理事
4	6月14日 (土)	13:00- 15:00	「子どもの成長と発達 ～傷つく子どもの心～」	藤田 貴士 三鷹マインドフルネス・ラボ 公認心理士
5		15:30- 17:30	「思春期の性 ～理解のポイントとつきあい方～」	村瀬 幸浩 元一橋大学講師・日本思春期学会名誉会員
6	6月28日 (土)	13:00- 15:00	「子どもの人権 ～子どものSOSを受けとめる～」	熊澤 美帆 弁護士・東京千代田法律事務所
7	7月12日 (土)	13:00- 15:00	「子どもと家庭 ～貧困、そして家族問題」	金子 由美子 NPO 法人さいたまコースサポートネット副代表
8		15:30- 17:30	「子どもの現状 ～危機介入と支援～」	世田谷区児童相談所 職員
9	7月26日 (土)	13:00- 15:00	「コミュニケーションの体験 ～より良いコミュニケーションを目指して～」	山本 多賀子 せたがやチャイルドライン支え手
10		15:30- 17:30	① 「ボランティアをすること」 ② 「チャイルドラインとは ～目的と受け手育成～」	① 世田谷ボランティア協会職員 ② 田野 浩美 せたがやチャイルドライン運営委員長・支え手

■人材養成と研究活動

【専修講座】(2025年度実績)

- ・目的 チャイルドラインの受け手(第29期(2025年度))養成
- ・対象 公開講座をすべて受講した方、18才~70才までの方
- ・内容 受け手ボランティアを始めるにあたり必要な知識と心構え
- ・各回の日程・テーマ・講師(場所:世田谷ボランティアセンター)

No.	開催日	時間	テーマ
1	9月20日 (土)	13:00-15:00	「出会いのワーク」 担当:文屋 裕子
2		15:30-17:30	「五感で感じてみる」 担当:峯崎 のり子
3	9月27日 (土)	13:00-15:00	「話すこと、聴くこと」 担当:伊藤 高章
4		15:30-17:30	「子どものころを振り返って」 担当:田野 浩美
5	10月18日 (土)	13:00-15:00	「子ども時代に立ち返るワークショップ」 担当:峯崎 のり子
6		15:30-17:30	「あなたはどうか考える?」 担当:原口 裕子・深山 ゆみ
7	10月25日 (土)	13:00-15:00	「電話の特性と限界」 担当:山本 多賀子
8		15:30-17:30	「受け手に向かって」 担当:伊藤 高章

【公開講座、専修講座以降の研修等】(2025年度実績)

	目的・内容等	回数	日程
インターン研修	対象:受け手研修を修了し、受け手インターンとして登録した方 内容:受け手インターンとしての実践(A・B2班に分けて実施)	年8回	4月12日(A・B合同)、5月10日(A)、24日(B)、6月14日(A)、28日(B)、7月12日(A)、26日(B)、8月9日(A)、23日(B)、9月13日(A)、27日(B)、10月11日(A)、25日(B)、11月22日(B)、2026年1月10日(A)、24日(B)、2月28日(B)、3月1日(A)、28日(A・B合同)
受け手継続研修	対象:インターン期間を終えた受け手 目的:活動のふりかえりやスキルアップ 内容:グループ体験学習や講座型研修	年9回	5月17日、7月5日、9月13日、11月16日、2026年1月17日、3月21日 *4月は「全員集合」、5月は「全体会議」をそれぞれ継続研修に代えて実施 *2024年度1月から、内容を会話記録かロールプレイとし、隔月で奇数月の週末に開催
オンラインチャット養成研修	対象:電話受け手 目的:オンラインチャットの受け手を養成する	2日間	応用編6月22日(日) 基礎編7月13日(日) 参加者欠席のため中止
支え手ミーティング	対象:支え手 目的・内容:支え手同士の意見交換、支え手が受け手の電話対応を支援するための情報共有、支え手の役割を考え再確認する研修の場	月1回	2025年4月17日、5月23日、6月19日、7月5日、8月7日、9月16日、10月休会、11月6日、12月5日、1月8日 *7月は支え手集中研修を、ミーティングに代えて実施(7月19~21日 合宿形式)
全員集合	対象:受け手、支え手、運営委員、事務局 目的・内容:相互の交流や情報交換	年3回	4月12日(土) 27期認定式、新規運営委員、支え手への委嘱状交付、対談 8月23日(土)29名 12月6日(土)20名

■組織の運営活動（2025年度実績）

【各種会議】 場所：世田谷ボランティアセンター又はオンライン

	目的・内容等	回数	日程
運営委員会	せたがやチャイルドラインの運営方針を示す	月1回	2025年4月24日、5月29日、6月24日、7月24日 8月28日、9月25日、10月30日、11月20日 12月18日、2026年1月15日、2月19日、3月19日
全体会議	メンバー全員でチャイルドラインについて話し合う	年1回	2025年5月31日
講座検討委員会	公開講座や専修講座の内容、専修講座修了後の面接等について検討する	必要に応じて	2025年8月23日、10月2日、11月21日 2026年1月10日 *2025年11月21日 研修委員会に改組
事務局会議		随時	

【せたがやチャイルドライン運営委員】

(敬称略 委員は50音順)

田野 浩美(委員長)、窪松 恵美子(副委員長)、大懸 竜次(情報セキュリティ責任者)、
伊藤 高章、備藤 士郎、星野 弥生、山本 多賀子

■職員体制

【職員研修】（2025年度実績）

月日	会議（人材育成に資するもの）/ ふりかえり	研修
4月25日	戦略会議	
6月10日	事業ふりかえり	
7月2日		相談業務スキルアップ研修*
8月29日	相談ふりかえり	
9月3日		相談業務スキルアップ研修
10月28日	相談ふりかえり	
11月21日	事業ふりかえり	
12月3日		相談業務スキルアップ研修*
1月16日		相談業務スキルアップ研修*
3月28日		相談業務スキルアップ研修*

相談業務スキルアップ研修 *講師：末松渉氏

II. ボランティア・市民活動推進第2部（せたがや災害ボランティアセンター）

常設の災害ボランティアセンターとして平時からの取組みに加え、能登半島など被災地の支援活動により、せたがや災害ボランティアセンター（以下「センター」と略）の活動への理解が深まっている。特に、2025年に区内で発生した集中豪雨にあたっては、発生直後から災害ボランティア活動を継続的に実施し、被災者の生活再建に大きく貢献するとともに、参加ボランティアに体験と学びの機会を提供することができた。

協会中期計画（2024～27年度）の重点目標「災害ボランティアセンターの地域連携と認知度向上」の要となる全ての指定避難所開設校でのサテライト設置場所の決定を目指し、避難所運営委員会や避難所運営訓練、防災イベント等への参加を通じてサテライトの設置場所決定を促している。

能登半島地震への対応を教訓とした法改正に伴い地域防災への取組みが注目される中、災害ボランティアコーディネーター養成の必要性についての認識が深まったことを踏まえ、今年度も養成講座（基礎編）を5地域各1か所の協定大学において継続実施するとともに、養成講座を修了しコーディネーター登録した方を対象とするスキルアップ講座について、複数年度にまたがる連続プログラムに基づき年6回実施するなど、災害ボランティア活動にかかわる人材育成を進めた。

また、災害時の必要な地域課題についての研究と、その成果に基づく啓発活動には十分な取組みができていない。この点は次年度に向けて改善を図る必要がある。

1 災害ボランティアコーディネーターの拡充

(1) 重点目標

災害ボランティアコーディネーター（以下「コーディネーター」と略）の養成講座（基礎編）を引き続き区内各地域及びオンラインで開催し、コーディネーター登録者の増をめざす。コーディネーター登録者を対象とするスキルアップ講座を2023～24年度に体系化したことを踏まえ、講座の継続・安定的実施を進め、意欲あるコーディネーターの養成とスキルアップにつなげていく。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① コーディネーター登録制度及び養成活動についての広報

コーディネーターの役割、養成の仕組みについて周知するため、防災イベントでの告知をはじめホームページ、セポネ、刊行物、ソーシャルメディア等も含め機会あるごとに一層の広報を図った。

② コーディネーター活動マニュアルの策定

スキルアップ講座の体系化によりサテライト運営の課題が具体的に掘り下げられ、運営マニュアルの各項目に該当する内容の整備が進捗した。

③ コーディネーター養成のための体系的カリキュラムの推進

スキルアップ講座全12回の実施により、コーディネーターに対しサテライトの具体的なイメージが共有されるようになった。また、2巡目に入ったスキルアップ講座の内容充実を図るとともに、今後の補講対応としてオンデマンド化の検討も始めた。

ア. 養成講座・基礎編

コーディネーターとしての入門講座を、マッチングセンターを開設する区内の5地域各1か所の協力協定締結大学で開催し、オンライン講座も引き続き実施した。

（詳細は資料編 p.45 参照）

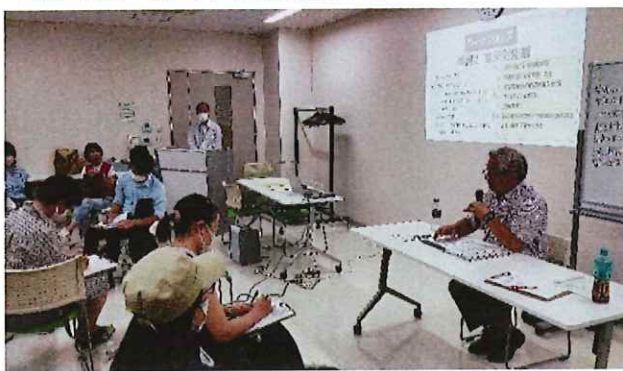
【基礎編の内容】

- ① 世田谷区の災害対策について（5地域 地域振興・防災担当）
- ② 災害ボランティア活動とマッチングシステム（センター地域担当職員）

- ③ マッチングセンター模擬訓練 (センター職員、コーディネーター)
- ④ 模擬訓練ふりかえりと質疑応答 (グループワーク)
- ⑤ 講評 (大学関係者又はセンター長)
- ⑥ 修了式

イ. スキルアップ講座

基礎編の受講を終えてコーディネーター登録した方を対象に、全12回の体系的・継続的な養成講座を実施する。2025年度は、2024年度中に2巡目第3回まで開催した続編として第4回～第9回を開催した。(詳細は資料編 p.45 参照)



ウ. 専修講座

年1回、タイムリーなテーマを選んで災害やボランティアコーディネート活動に関する講座を「専修講座」として開催している。2025年度は、「これからの指定避難所とコーディネーターの役割」と題して講義とグループワーク、グループ発表を行った。

2026年3月8日(日) 世田谷ボランティアセンター

2 サテライトでのコーディネート活動を充実させるための基盤整備、世田谷区内で発生する様々な災害に対応したコーディネート体制の整備

(1) 重点目標

災害時のボランティア活動の拠点となるサテライト(指定避難所 96 か所に設置)がマッチングセンター(区内5地域各1か所の協力協定締結大学に設置)と連動して実働することができるよう、学校や地域など関係先との調整を進める。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① サテライト等設置の調整

2023年度にまちづくりセンター連絡調整協議会が調査し、とりまとめた地区ごとのサテライト設置場所決定状況の調査結果を前提に、小中学校等へのサテライト設置について、具体的場所選定、レイアウト及び備品等について早期確定を呼びかけた。

場所の決定については、学校側及び避難所運営委員会との協議が必要となるが、現在は60%程の決定率となっている。キャンパス整備が進展した昭和女子大学においては、区と施設管理者とで協議し、マッチングセンターの候補地の検討、再確認を行った。

② 区、社会福祉協議会等との情報交換、情報共有

区、世田谷区社会福祉協議会、せたがや防災NPOアクションの4者において定期的に開催している災害ボランティア連絡会を2026年1月27日に開催されたので、各団体の活動状況の情報交換、区の災害への取組みについての情報共有を行った。

また、世田谷地域において経堂地区介護事業者防災検討会、烏山地域での地域ケア会議に定期的に参加し、災害時避難行動要支援者に対するボランティア対応等の意見交換を行った。

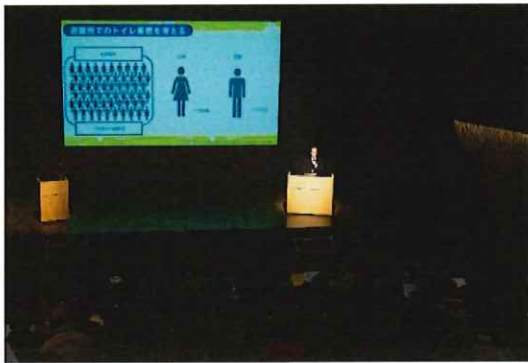
授業協力を行っている都立芦花高校においては、協会職員が同校の防災教育推進委員会委員を務めている。
(詳細は資料編 p. 51 参照)

③ 地域での啓発活動

災害・防災に関する情報収集・情報共有や啓発活動の一環として、①の地域イベントに加え、防災シンポジウムを開催し、トイレの問題が避難所の保健衛生にとどまらず地域全体の課題でもあることを課題提起した。シンポジウムの内容は、情報誌「セボネ」2026年3月号特集記事で紹介した。
(詳細は資料編 p. 46-51 参照)

■防災シンポジウム

- ・開催日・場所 2026年1月12日(月祝) 北沢タウンホール
- ・テーマ 「災害時のトイレ問題を考える」 (詳細は資料編 p. 52 参照)



④ 指定避難所ファーストアクションカードの検討

指定避難所の初動期における対応の指針として 2023 年度に区がとりまとめた「指定避難所ファーストアクションカード」は、各地の避難所運営訓練等で行動のチェックに活用されている。センターとして、これまでの経験を踏まえ、アクションカードの構成について見直し検討を行い、タイムラインを作成し、区に有効活用の提案を行った。(2025年5月14日 世田谷区 総合支所地域振興課防災担当係長会)

指定避難所ファーストアクション タイムライン案(概要)

時刻	参加人数			安全点検 照明確保 4名	トイレ確保 案内表示	避難所受入準備 案内表示	避難者の受入	ペットの受入	地域本部拠点隊 (まちづくりセンター) 連絡・報告
	スタッフ	避難者	合計						
15:00	3	2	5	4名	4名	4名	4名	2名	15:30 避難所開設準備の判断
15:45	5	9	14	4名	4名	4名	4名	2名	15:45 避難所開設の判断
16:00	10	17	27	4名	2名	4名	10名	2名	
16:30	12	29	41	3名	2名	4名	10名	2名	
16:30	13	23	35	3名	2名	4名	10名	2名	
17:00	15	15	30	3名	6名	2名	10名	2名	
17:30	15	15	30	3名	6名	2名	10名	2名	
18:00	15	3	18	3名	6名	2名	10名	2名	
18:30	12	0	12	3名	6名	2名	10名	2名	
避難所運営									

*スタッフ:避難所運営委員 避難者:実働可能な方
 【●名】:必要人数(概数、避難所の規模等により異なるが、記載人数以上が望ましい)

4 災害ボランティア登録制度の整備と運用

(1) 重点目標

区民を中心に、災害時に活動できる一般ボランティア及び専門ボランティアについて事前登録制度を整備し、日常的な情報交換と災害発生時の活動呼びかけ等を円滑かつ効果的に行う体制を整える。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① 災害ボランティアの登録方法、運用方法の策定

せたがや災害ボランティアセンターを中心とする協会全体のICT環境整備に関する検討と連携を図り、災害ボランティアの登録方法、運用方法の策定を進めた。

2023～2024年度の2か年のわたる活動報告書を取りまとめ、協会内で情報共有した。

② 災害ボランティア情報データ管理

全国及び東京都の社会福祉協議会でも導入している kintone（キントーン）へ、従来の salesforce（セールスフォース）からのデータ移行を2024年度に行った。2025年度も引き続き登録情報の確認を行うとともにシステムの適切な運用を進めた。

2025年7月10日及び9月11日の区内で発生した豪雨被害への対応にも活用した。

〈せたがや災害ボランティアセンター運用システム Kintone〉

	平時の利用	災害時の利用
	<input type="checkbox"/> 登録者名簿 <small>※災害ボランティアコーディネーター</small> <input type="checkbox"/> 講座への出席者名簿	<input type="checkbox"/> ニーズ管理 <input type="checkbox"/> 活動指示書・報告書の管理 <input type="checkbox"/> 災害ボランティア名簿の管理
	<input type="checkbox"/> 講座の申し込みフォーム	<input type="checkbox"/> 災害ボランティアの事前活動可能日の登録
	<input type="checkbox"/> 講座やイベントの案内配信	<input type="checkbox"/> 災害ボランティア活動決定の配信 <input type="checkbox"/> 災害ボランティア活動可能日の事前登録のお願い

〈ボランティアの受け入れ・ニーズ管理〉

アイコン	名称	目的
	本登録	災害ボランティア登録台帳

せたがや災害ボランティアセンターへの登録は3種類 ※登録は重複可

- ①災害ボランティアコーディネーター
- ②災害一般ボランティア
- ③災害専門ボランティア

アイコン	名称	目的	アイコン	名称	目的
	事前登録	災害ボランティアの活動可能日の事前登録		物品管理	被災者への貸出
	依頼カード (水害・地震)	被災者ニーズ管理 経過記録の管理		災害基本 情報	発災事案の記録 ※どの災害に関連する ニーズかの紐づけ※
	活動指示 活動報告	活動指示の記録 活動内容の報告	依頼カード・活動指示書・活動報告書については 既存様式にも記入し、紙と電子を併用しています。		

5 ネットワーク・情報交換活動

(1) 重点目標

災害支援活動に取り組む様々な団体とのつながりを通じて、適切な情報交換を行う。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① 東京都社会福祉協議会城南ブロック防災担当者会議への参加

2023～24年度は世田谷区がブロックの担当幹事を務め、2025～26年度の幹事区(渋谷区)に引継ぎを行った。2025年度においては、2025年7月10日及び9月11日の集中豪雨対応についてセンターの取組み事例の情報提供を行った。

② 協定締結団体とのネットワーク

協力協定を締結している各団体からは被災地支援、特にボランティア派遣募金活動において多大の協力を得ている。これら団体とのネットワークによる関係性を大切にしていいため、平時から情報交換を行っている。

・協力協定締結団体

東京三軒茶屋ライオンズクラブ、東京世田谷ライオンズクラブ、東京さぎそうライオンズクラブ、公益社団法人東京青年会議所(JC)、日本ボーイスカウト東京連盟世田谷地区

③ 区内で発生した水害への対応

2025年7月10日及び9月11日に区内で発生した豪雨被害に際し、多くの団体から人材及び資機材の協力を得て、迅速な対応につなげることができた。

協力をいただいた団体について、情報誌「セボネ」2025年11月号に掲載して紹介した。

・協力団体(順不同 敬称略)

ADRA Japan、シャンティ国際ボランティア会、国土舘大学防災・救急救助総合研究所、チームエース、風組関東、課外のあらいぐま、震災がつなぐ全国ネットワーク

6 災害支援のための活動

(1) 重点目標

東日本大震災以降続く災害ボランティア派遣、また能登半島地震被災地へのコーディネーター派遣の経験を活かし、被災地のニーズに即した支援に取り組む。

(2) 取組みと進捗・活動状況

① 被災地支援活動

各種災害の被災地に対して迅速に災害ボランティアを派遣できるよう、派遣側の災害ボランティアセンターとしてのコーディネート活動に備える。

2024年度に支援活動を継続的に行った能登半島被災地支援において、現地からの要請に基づき必要な活動を行うべく募金活動を継続して行った(店舗における募金箱設置は2025年12月をもって終了し、以降は協会施設や協会事業において実施)。

② 交流支援活動

2011年の東日本大震災で起きた原発事故により1年間全村避難を行った福島県川内村で、帰村翌年の2013年からセンターは交流支援活動を行っている。

2025年度においても活動を継続的に行うとともに、ボランティア活動を通じた学びの機会とした。

(2025 年度実績)

月日	活動内容	参加者
4月 28～29日	地域の清掃活動、例大祭の準備及び参加等	10名
7月 5～6日	地域の清掃活動、高田島フェスタの参加等	7名
8月 9～10日	地域の清掃活動	5名
9月 27～28日	川内の郷かえるマラソン運営	7名
10月 25～26日	地域の清掃活動、川内村収穫祭	8名
11月 22～23日	地域の清掃活動、川内村高田島特産即売会	4名
12月 20～21日	地域の清掃活動	6名
	計	47名



7 成果と今後の課題

2025年7月及び9月に区内で集中豪雨が発生した際、登録ボランティア、災害ボランティアコーディネーター、協力団体の多大な協力を得て、発生直後からセンター職員と災害ボランティアを同時派遣し、被災した区民から多くの感謝の声が寄せられた。他自治体の関係機関からも世田谷の取組事例を学ぶべく視察や講師依頼があり、積極的に対応した。センターを常設していることが迅速な対応につながったものであり、これまで取り組んできた世田谷方式によるボランティア受入れシステムの周知と人材養成をさらに進めるとともに、災害時のボランティア活動拠点となるサテライトの実地訓練を通じて運営マニュアルを実践的な内容にとりまとめていくなど、これまで不十分であった部分の強化を図り、成果につなげる必要がある。

これまでの知見を踏まえ、災害対応活動を提言し、実践するとともに、災害への備えの大切さを多くの区民に呼びかけ、区民の間に新しい意識を醸成して地区住民を中心とした共助活動の進化につなげることが重要である。また、センターの活動の基盤となるボランティア情報データの適切な管理運用を行い、災害時にも活用できるシステム構築に繋げてゆく。

被災地支援の取組(2024年度)や区内の水害対応(2025年度)等を踏まえ、事業体系をより実態に合ったものに改める観点から、2025年度中に行った見直し検討の内容を2026年度事業計画に反映させる必要がある。

8 職員体制

(1) ボランティア・市民活動推進第2部(せたがや災害ボランティアセンター) 職員体制

	常勤	臨時
センター長(理事長兼務)		1名
次長事務取扱	1名(第1部長兼務)	
災害担当	4名	2名(兼務1名)

(2026年3月31日現在)

(2) 職員研修

災害担当職員の災害ボランティア活動及びコーディネート活動に関する知見を深め、かつ協会の活動ビジョンへの理解を促進するための内部研修とともに、災害ボランティアに関する外部研修にも派遣し、情報収集や関係機関との連携を図った。

*ボランティア・市民活動推進第2部の実績データについては以降に掲載

■コーディネーター養成講座の実施

【養成講座・基礎編】(2025年度実績)

参加者数：オンライン講座は視聴者

事業名・開催場所	実施日	参加者数
基礎編・昭和女子大学	6月7日	42名
基礎編・国土館大学	9月13日	51名
基礎編・日本大学商学部	10月18日	42名
基礎編・日本女子体育大学	11月8日	20名
基礎編・日本体育大学	11月22日	10名
オンライン講座	4～6月	131名
オンライン講座	7～9月	83名
オンライン講座	10～12月	67名
オンライン講座	1～3月	92名
計		538名

【スキルアップ講座】(2025年度実績)

回	テーマ	開催場所	実施日	参加者数
4	ボランティアの作業内容の決定	三茶しゃれなあど	5月31日	30名
5	マッチング方法	梅丘パークホール	6月28日	32名
6	ボランティアの現場活動における健康と安全	成城ホール	8月30日	32名
7	避難所との関係・連携	上野毛地区会館	9月27日	24名
8	活動報告の整理と終業ミーティング等	烏山区民センター	12月20日	33名
9	サテライトでの情報管理	ボランティアセンター	2月21日	30名
計			6回	181名

12回連続講座の2巡目。第1～3回は2024年度に開催、第10回以降は2026年度に開催予定

【専修講座】(2025年度実績)

- ・実施日 2026年3月8日(日)
- ・場所 世田谷ボランティアセンター
- ・テーマ これからの指定避難所とコーディネーターの役割
- ・内容

講義	横山康博(せたがや災害ボランティアセンター長)
グループワーク	発災後の初動期は個別ニーズ対応を中心に活動することになるが、中長期的には在宅避難者を元気にするプロジェクトを進めていくことが必要になる。その場合の運営の担い手や情報管理のあり方について討議
グループ発表	5グループごとの発表
講評	横山康博(せたがや災害ボランティアセンター長)

- ・参加者数 29名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換

(2025 年度実績 実施日順)

【世田谷地域】

会場	避難所運営委員会等	避難所運営訓練、防災啓発イベント
経堂地区介護事業者防災検討会	4月17日 6名 6月26日 6名 11月21日 15名	
三軒茶屋小学校	5月9日 15名 6月26日 19名 9月12日 25名 10月16日 14名	訓練参加 9月27日 73名
三軒茶屋銀座商店街 体験型防災フェア		PRコーナー 5月25日 100名
経堂小学校		訓練参加 6月7日 33名
下馬野沢地区防災連絡会	6月10日 21名 10月10日 12名	
池尻小学校	6月14日 29名 7月12日 36名	訓練参加 9月7日 86名
笹原小学校		訓練参加 6月28日 64名
駒繫小学校	7月1日 14名 8月1日 10名 9月9日 54名	訓練参加 10月4日 150名
中丸小学校	7月8日 12名 8月25日 9名	訓練参加 10月18日 69名
旭小学校	7月28日 6名 9月9日 28名 10月14日 30名	訓練参加 11月9日 81名
三宿小学校	8月27日 33名	訓練参加 10月4日 86名
三宿中学校	10月1日 17名	訓練参加 12月6日 25名
中里小学校	2026年3月7日 18名	訓練参加 9月6日 18名
多聞小学校	10月15日 26名 11月13日 22名	訓練参加 12月13日 66名
太子堂中学校	9月8日 8名	
世田谷小学校		訓練参加 9月27日 34名
駒沢中学校	10月14日 10名	訓練参加 12月6日 28名
桜丘小学校		訓練参加 11月16日 29名
三軒茶屋ふれあい広場 (ごきんじょ市)		PRコーナー 11月15日 2000名
計	26回 495名	16回 2942名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換

(2025年度実績 実施日順)

【北沢地域】

会場	避難所運営委員会等	避難所運営訓練、防災啓発イベント
代沢小学校	5月21日 15名 8月20日 13名 2026年1月14日 13名 2026年3月6日 12名	合同訓練 12月14日 66名
まもりやまテラス	6月4日 11名 9月25日 16名	わくわくDay(訓練)11月9日 227名
下北沢小学校	6月7日 23名 2026年3月7日 34名	訓練参加 12月13日 42名
新代田地区防災訓練		訓練参加 6月8日 212名
代田小学校	6月12日 20名 9月11日 17名 2026年2月5日 21名 2026年3月7日 34名	訓練参加 11月1日 222名
城山小学校	6月14日 20名 8月9日 35名 12月6日 33名 2026年1月17日 31名	城山キャンプ 10月4日 449名 訓練参加 2026年1月17日 31名
さくら花見堂	6月14日 17名 2026年3月14日 16人	訓練参加 12月6日 25名
山崎小学校	6月28日 24名	訓練参加 2026年1月24日 30名
北沢中学校	9月18日 23名 26年2月19日 22名	訓練参加 11月20日 26名
富士中学校	9月22日 23名 10月27日 36名 2026年1月21日 25名	訓練参加 11月16日 134名
世田谷中学校	26年2月28日 12名	防災訓練・ 防災フェス 11月1日 97名
松沢中学校	12月2日 20名 2026年3月19日 15名	訓練参加 11月9日 82名
緑丘中学校		訓練参加 11月22日 423名
赤堤小学校	2026年2月28日 34名	訓練参加 11月24日 413名
松沢小学校	2026年3月7日 23名	訓練参加 11月29日 124名
松原小学校	2026年3月7日 23名	訓練参加 12月13日 75名
池之上小学校	2026年3月9日 20名	訓練参加 2026年2月22日 57名
羽根木公園(雑居まつり)		マンホールトイレ実演 10月12日 250名
計	31回 681名	19回 2985名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換

(2025 年度実績 実施日順)

【玉川地域】

会場	避難所運営委員会等	避難所運営訓練、防災啓発イベント
玉川田園調布会	5月13日 5名	防災訓練 11月29日 48名
	6月10日 5名	
	7月8日 5名	
	8月26日 5名	
	9月26日 4名	
	10月30日 5名	
	12月4日 5名	
八幡小学校	6月3日 16名	訓練(HUG) 9月30日 36名
	9月10日 16名	
八幡中学校	6月19日 19名	訓練(ファーストアクションカード) 11月13日 33名 3校合同資機材訓練 11月28日 33名
	10月9日 21名	
九品仏地区防災塾(参加)	9月26日 35名	
九品仏小学校		訓練参加 10月31日 25名
JRA 馬事公苑(ふるさと区民まつり)		防災啓発 8月2・3日 250名
計	12回 141名	6回 425名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換
(2025年度実績 実施日順)

【砧地域】

会場	避難所運営委員会等	避難所運営訓練、防災啓発イベント
成城地区 防災住民研修会 区民防災会議 区民防災会議	6月22日 52名 8月6日 7名 2026年3月19日 7名	
希望丘小学校	6月25日 15名 9月24日 17名 10月22日 15名 11月19日 13名	訓練参加 12月7日 152名
砧中学校	7月12日 22名 9月13日 22名 11月8日 23名 2026年1月10日 23名 2026年2月14日 20名	防災フェスタ 10月19日 249名
喜多見2丁目団地自治会	避難行動要支援者避難 支援訓練意見交換会 7月17日 14名	安否確認訓練 9月18日 35名
千歳台小学校	7月25日 18名	訓練参加 10月19日 129名
祖師谷小学校	8月1日 25名 8月27日 41名	訓練参加 11月30日 105名
船橋希望中学校	9月6日 27名 10月24日 5名	夜間訓練 11月8日 45名 訓練参加 2026年2月28日 65名
明正小学校	2026年2月18日 22名	子ども向け避難所体験会 9月20日 245名 訓練参加 2026年3月1日 133名
喜多見地区		水害時避難訓練 9月24日 35名 避難・防災訓練 10月19日 144名
千歳小学校	9月27日 17名 11月1日 23名	訓練参加 2026年2月7日 118名
山野小学校	10月25日 30名	合同訓練 11月23日 244名 訓練参加 2026年1月24日 30名
砧南小学校	10月29日 11名	訓練参加 11月30日 38名
塚戸小学校	11月7日 18名	訓練参加 2026年2月15日 224名
砧小学校		訓練参加 11月15日 85名
砧南中学校		訓練参加 11月29日 73名
喜多見中学校		訓練参加 11月30日 79名
千歳中学校		訓練参加 12月13日 45名
希望丘複合施設		訓練参加 2026年2月17日 50名
喜多見小学校		訓練参加 2026年3月7日 105名
砧地域「防災そなえるDAY」		PRコーナー 11月23日 190名
計	24回 487名	23回 2618名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■地域での様々な災害への取組みの機会を活用した情報提供と意見交換
(2025年度実績 実施日順)

【烏山地域】

会場	避難所運営委員会等	避難所運営訓練、防災啓発イベント	
烏山小学校		訓練参加	5月11日 58名
芦花小学校・中学校 避難所体験・防災フェス		PRコーナー	6月7日 350名
烏山地区防災訓練		PRコーナー	6月29日 408名
烏山北小学校	7月25日 7名 8月21日 20名 9月29日 18名	訓練参加	9月6日 57名
武蔵丘小学校	8月27日 11名 9月18日 27名	訓練参加	9月27日 59名
給田小学校	9月26日 10名 10月20日 29名	訓練参加	11月1日 55名
芦花公園団地自治会	7月10日 10名	防災カフェ 地域防災はじめての一步	11月16日 14名 11月23日 115名
芦花高校防災教育推進委員会	6月20日 11名 11月14日 11名		
蘆花まつり		PRコーナー	10月26日 220名
計	10回 154名	9回	1335名

【防災塾、防災講話等】(2025年度実績)

事業名	内容	実施日	参加者数
シニアの学びと集い はちまんやま寺子屋	在宅避難の準備	6月21日	13名
玉川生涯学習セミナー	地震と水害	9月2日	23名
二子玉川地区防災塾	水害を知り、備える	9月15日	50名
富士中学校避難所運営訓練	防災基礎講座	11月16日	134名
世田谷区社会福祉法人地域公益活動協議会(せたがや公益協)災害時対応検討部会	災害ボランティアコーディネーターの役割・機能	12月11日	13名
太子堂地区防災塾	歩いて学ぶ!身近な防災	2026年1月17日	63名
経堂地区防災塾	在宅避難と避難所運営	2026年1月27日	29名
松原地区防災塾	現実を見据え、避難所のあり方を考えた運営方針	2026年1月27日	26名
新代田地区防災塾	避難所運営の流れとポイント	2026年1月31日	23名
楽々くらぶ 防災講話(烏山)	サテライトと共助について	2026年2月19日	15名
喜多見小学校避難所運営訓練	防災基礎講座	2026年3月7日	60名
計		10回	449名

資料編 3 行政や避難所運営組織等と連携した災害ボランティア活動に関する区民への情報提供の拡充

■学校・授業の支援（2025年度実績）

学校	内容	実施日	参加者数
都立松原高校	HUG (避難所運営ゲーム)	7月17日	26名
国土館大学 防災リーダー養成論実習	災害ボランティア活動	8月19～28日 (6回)	540名
都立芦花高校防災講座	防災講話、 マンホールトイレ組立訓練	11月5日	280名
中野区立中野中学校	災害ボランティア活動・ ボランティアセンター視察	11月21日	11名
計		9回	857名

■その他区外対応（2025年度実績）

実施場所	内容	実施日	参加者数
都立矢口特別支援学校	避難所開設訓練・講話	7月23日	87名
杉並災害ボランティアの会 総会	災害ボランティア活動の 仕組み、豪雨災害対応	2026年1月24日	23名
区市町村災害ボランティア 担当者会議	2025年都内豪雨災害 事例報告	2026年2月24日	80名
計		3回	190名

■防災シンポジウム（2025年度実績）

- ・実施日 2026年1月12日(月祝)
- ・場所 北沢タウンホール
- ・テーマ 災害時のトイレ問題を考える
- ・内容

発表内容	登壇者
大地震、どうなる？トイレ	小泉 宰美 (せたがや災害ボランティアセンター主任)
マンホールトイレと仮設トイレについて	依田 真広 氏 (シンテイ警備 新宿支店 防災訓練委託事業業務責任者・大隊長)
携帯トイレと簡易トイレについて	足立 寛一 氏 (株式会社エクセルシア 代表取締役 一般社団法人日本トイレ協会運営委員)
災害時のトイレ問題を考える	渡邊 珠人 (せたがや災害ボランティアセンター)
総評	横山 康博 (せたがや災害ボランティアセンター長)

- ・参加者数 148名

Ⅲ. 福祉事業部

2025年の介護事業者(老人福祉・介護事業)の倒産は、176件(前年比2.3%増)で、2年連続で最多を更新した。なかでも3年連続で最多を更新した「訪問介護」が91件(前年比12.3%増)と突出し、全体の件数を押し上げた。倒産の要因は「人手不足」によるものが29件(前年比45.0%増)に上り、福祉業界全体における人材不足が大きく影響している。福祉事業部においても様々な求人対策を行ったが応募につながらず、人員不足のまま事業を継続し、ケアセンターwithにおいては定員変更など事業の再編成に取り組んできた。例年収支が安定していた訪問介護事業所(ケアステーション連)においても、2024年度報酬改定の影響に加え、利用者家族の高齢化による環境変化(入所)に伴うサービスの終了、ヘルパー不足等により厳しい収支状況となっている。

このような状況においても新規利用者の受け入れは積極的に行い、事業部全体で270名ほどの方が新規利用につながり、継続してサービスを利用されている方も合わせ、延べ770名の方へ支援を行うことができた。この数字は、地域のなかで私たちの事業が必要とされている表れであり、厳しい状況下においても事業を継続していかなければいけないと決意を新たにしている。これまで積み重ねてきた地域のなかのつながりを活用しながら事業を継続していくことに加え、福祉事業部の事業を強く太くしていくことが求められていると強く感じる。

今後も、地域から必要とされる事業の継続に向け、真摯に専門職として研鑽を積みながら、障害のある方々が希望をもち暮らしていくことにつながるよう、事業活動に取り組んでいく。

【重点目標に対する取り組みについて】

① 現在の事業が担うべき役割を見直し、事業を展開していく

管理者会議において中期計画を基に、福祉事業部それぞれの事業が担うべき役割に加え、地域から求められている役割について協議してきた。特に、ケアセンターwith(以下 with)においては、職員の退職をきっかけに今後の事業展開について現場職員も含め、何度も協議を重ねてきた。利用者へのアンケートを実施し、withに求められている役割を再確認し、利用定員の変更、プログラムの再構成など行った。withの事業再構築は、福祉事業部の事業に求められている役割、今後担うべき事業の形を考える大きなきっかけとなった。

② これまで培ってきた専門性と地域のつながりを生かし、新たな事業展開を目指していく

管理者会議において、福祉事業部事業の今後の形を協議してきた。協議した内容を基に、新たな事業展開の実践に向け「中期計画推進会議」を立ち上げ、次年度に試行的な取り組みが行えるよう協議を重ねている。また、新たな事業展開を図るために既存事業をどう継続、進めていくべきかが重要と考え、上半期の事業状況から下半期事業取り組みの見直し、2026年度に目指すべき事業展開に向けた予算形成を10月から協議し、早い段階から事業計画、予算編成に取り組んだ。

③ 担い手である全ての職員が力を発揮し合い、十分に活躍できる職場づくりをおこなう

職員一人一人が力を発揮し活躍できる職場づくりを目指し、毎月開催する事業部全体会においてケース検討会、虐待研修を行った。あわせて中期計画、事業計画、予算の共有もを行い、自身の所属事業における役割を理解するための機会も作った。また、働きやすい職場環境整備を目指した処遇改善策として、職場環境改善加算等も積極的に活用した。あわせてキャリアアップ制度の見直し、給与規程の改定も行い、働き続けたいと思う職場づくりに取り組んできた。人材不足に対する求人活動の強化対策として、「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言」を申請し、東京都の助言のもと求人者が魅力的に感じる職場づくりに向けた整備、改善を行いA評価で認定された。

1. ケアセンターふらっと（障害者総合支援法 生活介護事業・自立訓練事業・高次脳機能障害者相談支援促進事業・特定相談支援事業）

(1)基本方針

利用者の主体性に基づくりハビリテーション・プログラムを以下の方針に基づき提案し実施していく。

1. 社会生活への主体的な参加
2. いのちと人権を守りながら、心身の健康維持増進をはかる
3. 個性・特性を尊重した活動
4. 利用者と家族への支援
5. 地域の人たちとの交流

(2)重点目標に対する取り組み

① 利用者の個別性に応じたプログラムを、利用当事者と共に作る

これまで実施していた「ふらっとカンファレンス」「サービス管理責任者会議」に加え、ケースワークや利用者の情報共有を強化するため「生活介護会議」を新たに開始した。利用者個別の目標再確認や、日々のプログラム見直しなどを行い、利用者との相談しながら新たなプログラムの提案ができる機会を増やした。

② 支援内容の充実を図るため、障害特性及び社会資源、制度など職員の基礎知識を増やし、多様な研修を実施する

職員の基礎知識向上に向けて、外部研修への積極的な参加をした。現場の体制を整え、多くの研修に参加しやすい環境づくりに力を入れ、その結果、延べ50回以上の参加となった。研修で学んだことは、定例カンファレンスにて職員間で共有した。また、新規採用職員のスタートアップ研修の整備にも取り組んだ。法人に関すること、各事業に関すること、高次脳機能障害に関することなど、入職後早期に学べる仕組みづくりをおこなった。

③ 災害をより具体的に「日常化」する活動を利用者と共に実践する

災害時対策として、利用者一人ひとりの状況確認を実施している。災害に関する項目として「個別支援計画書」に防災欄を追加し、支援計画更新面談実施の際には、自宅の備蓄品状況や避難場所を知っているかなどの確認を行っている。特に、単身生活者においては、緊急時の対応方法などスタッフ間でも確認している。

(3)活動状況

① 生活介護事業

高次脳機能障害支援や身体のリハビリだけでなく、さまざまな障害状況と希望に合わせて、専門のスタッフとチームを組み支援を重ねてきた。また、日常生活に必要な医療ケアや、専門職による評価、医師との医療相談、仲間はもちろんのこと、ボランティア、実習生との交流などさまざまな活動を実施した。特に近年は復職を希望する利用者が目立って増えてきたことから運営委員会において有識者の助言を受け、支援に生かしている。利用者の主体的な活動を実現できるような場面づくりをこころがけた。

■主な活動

- ア、料理活動
- イ、身体機能維持・回復の活動
(リハビリテーションプログラム・生活支援・健康管理)
- ウ、創作活動
- エ、仲間づくり
- オ、所外活動
- カ、個別支援プログラムの作成と実施



※バブルガムシスターズによる調理実習

② 自立生活訓練事業

2025年度も、『就労』や『復職』を希望する人の利用が多かった。復職1名、新規就労1名をそれぞれ送り出すことができたが、一方、後遺症が重く、すぐには就労にはつながらず、より実践的訓練のため就労系の事業所に移行したり、話し合いの結果、復職を断念せざるをえなかったりと、利用者の方それぞれが自身の障害に向き合わざるを得ない状況も生じた。

それでも、一人一人と現状を確認し、関係機関と連携を取りながら次へのステップを提示することで、スムーズな移行に繋がった。時間をかけて話し合い、時には希望を再確認するなどして、自身が選択、決定できる機会を作ることを重点に支援をおこなった。



※自立訓練恒例のお花見

③ 高次脳機能障害者相談支援促進事業

2025年度、相談支援者数は77人であった。回復期病院退院前や地域生活を再開後に、地域でのリハビリテーションや障害福祉サービスの活用などについて個別に相談支援を実施した。福祉サービスを新規で利用するケースにおいては、特定相談支援事業に移行し相談支援を継続した。

高次脳機能障害の支援・普及を目的に、区、東京都、および区西南部圏域との連携を図った。

区については、世田谷区保健センターとの協議(全3回)を行い、世田谷区高次脳機能障害者関係施設連絡会を区保健センターと共催で再開した。

都については、東京都心身障害者福祉センター高次脳機能障害相談員連絡会などに参加し、研修参加、情報共有、関係機関との連携を図った。(全5回)。さらに、2025年度から「東京都高次脳機能障害支援養成研修」が開始され、基礎編・実践編を担当職員が受講した。

区西南部圏域については、連絡会議および研修(事例検討会)に参加し、研修参加、情報共有、関係機関との連携を図った(全5回)

当事者が地域のイベントに参画したり、講演会で講師をするなどの啓発活動や社会参加の機会が少しずつ増えており、参加に向けた準備や同行などの支援を実施した。

④ 特定相談事業

79名の計画相談利用者の障害状況は、主に高次脳機能障害のある方であるが、精神疾患や若年性認知症の方も多く、加えて医療ケアが日常的に必要な方々もおり、幅広いケースワークが必要となってきている。疾病の重篤さに加え、背景にある家族の課題、経済的な課題など計画相談のみで担えることはなく、地域の関係機関はもちろんインフォーマルな社会資源も活用しながら相談支援をすすめていくことが求められている。

⑤ その他

- ・運営委員会を年2回開催した。「単身生活者の支援について」や「高次脳機能障害者の復職支援と課題」をテーマに、様々な立場の運営委員から貴重なアドバイスを得た。
- ・東京都主催の虐待研修を1名、高次脳機能障害支援養成研修を2名が受講した。研修受講後は定例のカンファレンスにて情報共有をおこない、虐待研修については事業所の全職員を対象に伝達研修を実施した。

(4) 今後の課題

① 個別プログラムの充実

利用者一人ひとりの個別性に応じた支援内容やプログラムの充実を継続していく必要がある。外部研修への参加や事例検討の機会をさらに充実させ、職員一人ひとりのケースワーク力の向上を図っていく。また、職員間で支援経過や対応方法の共有を意識的に行い、支援のばらつきを減らしながら、利用者が安心して継続的にサービスを利用できる支援体制の強化を図っていく。

② 災害・感染対策への取り組み

利用者の居住状況の把握を進めるとともに、各家庭の状況に応じた災害時対策の検討が必要である。アンケートや日頃の支援を通じて得られた「小さな気づき」を利用者・家族と共有し、自宅での備蓄、避難時の介助体制、福祉用具が使用できない場合への備え等について、具体的に検討していく。一人ひとりの生活状況に合わせた災害時対策を個別支援計画へ反映し、緊急時における支援体制の強化にも努める。また、施設としても災害時の備蓄品の充実を図り、緊急時への備えの強化を進めていく。

③ 職員の補充

人事異動により正規職員1名を補充することができたが、引き続き職員が1名不足している状況が続いている。5年後、10年後を見据え、将来的な支援体制の維持・強化に向けて、若い世代を中心とした職員募集を積極的に行っていく。また、事業所単体での対応にとどまらず、福祉事業部全体として「人材の確保」に関する課題や対策について検討を進め、継続的な人材確保につながる募集の仕組みづくりに取り組んでいく。

2. ケアセンターwith（介護保険制度 地域密着型通所介護事業）

(1)基本方針

- ① 通所される方々と家族が希望をもち、大切にしたい暮らしの一助を担えるよう事業に取り組んでいく。
- ② 通所される方々の個性、特性を理解、尊重し、社会生活へ主体的に参加できるよう、活動やリハビリテーション・プログラムの充実と環境整備をすすめていく。

(2)重点目標に対する取り組み

① 活動内容の工夫と提案

2025年度は、それまでの2か所への外出活動から、1か所へと変更し、少ない職員によるリスクを減らし、3名で全体を見ていくことに変更した。また、室内でのプログラムにも取り組み、曜日によって外出組と室内組に分け、午前中の活動を行った。

② 情報発信の強化

利用率向上へ居宅介護支援事業所への空き情報の発信回数を増やし、Instagramでの積極的な情報発信を行った。Instagramは利用者本人、家族、また関係各所でみてもらったが、利用率向上までには至らなかった。

(3)活動状況

① 利用されている方が持つスキルを生かした活躍の場作り

利用されている方の「自分の役割を持ちたい。」と思う気持ちを尊重し、活動に取り組んできた。外出時に車いすを押す、昔作っていたものをみんなに食べてもらう、初めて料理にチャレンジするなど、ひとりひとりが主役となれる活躍の場を作ってきた。



② 苦手なリハビリも仲間と行うと楽しくなる

リハビリプログラムは、利用されている方同士、共に行うことで「楽しく」「積極的」に行えるよう取り組んできた。言語聴覚士とのグループセッションでは、身近なことを話し合う談話を通して言語機能の回復を目指し、外出プログラムでは仲間と一緒に散歩することで歩行訓練につながるよう取り組んできた。



③ 外出は充実した生活の糧となる

自分が「出かけたいときに出かける」ことを目標に、多くの仲間と一緒に外出することで気分転換を図りながら運動機能などの維持・向上を目指した。

<外出時の写真>



<高輪ゲートウェイ>

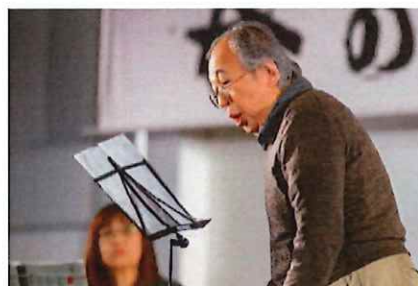


<馬事公苑>

主な外出先： 新宿御苑、山下公園、六本木ミッドタウン、国立近代美術館、NHK 放送博物館
高輪ゲートウェイ、馬事公苑、ノースポート、麻布台ヒルズ等

④ 地域交流のイベント参加を通じて、高次脳機能障害の理解を広げる

2025年度も行われた当事者参加のイベント「春の音コンサート」(主催:世田谷高次脳機能障害連絡協議会)に、利用されている方と参加した。コンサート当日、参加される方が一人で会場に来ることができるよう、会場までの交通機関を職員と共に確認した。また、コンサート参加時に必要なヘルパー等の依頼もご本人が取り組めるようサポートした。ご本人の「〇〇したい」を大切に、今後も主体的に地域活動へ参加できるようサポートしていきたい。



(4)今後の課題

- ・ 職員の欠員により火曜日を閉所し、利用されている方を他の曜日に振り替えて対応した。
人手不足による事故のリスクを減らすために、利用人数を減らし、事故防止に努め、一人一人の希望に沿ったプログラム実施できるようにしていく。
- ・ 利用人数を減らすことで利用率向上は見込めるが、今後も居宅介護支援事業所への空き情報の発信、インスタグラムでの積極的な情報発信を行い、行き場のない若年性認知症や高次脳機能障害の方々の居場所として、介護保険分野における若年層(65~75歳)の新規利用増加を図っていく。

3. ケアステーション連(訪問介護事業・居宅介護事業・自由契約)

(1)基本方針

- ① 利用者の心身状況・環境等に応じて、自立した生活ができるように支援する。
- ② 当事者家族・関係機関等と連携をとり、多様なニーズへの対応をおこなう。
- ③ 利用者のみならず、家族等への支援もおこなう。
- ④ チームケアを実践しながら、個別支援を充実させる。
- ⑤ 職員の技術の向上にむけて、キャリアに応じ多様な研修を実施する。

(2)重点目標に対する取り組み

① 新規登録ヘルパーの確保

今年度も継続して求人情報誌を掲載し、幅広い層へのアプローチを行った。また、世田谷区福祉人材・育成研修センター主催の「せたがや福祉のしごと相談会」には6月と8月の2回参加し、事業所紹介や仕事内容の説明を行った。応募には至らなかったが、地域の求職者層の傾向を把握する機会となり、今後の求人方法の検討につながる取り組みとなった。



② ヘルパーとコミュニケーションを密にとり、チームワークの強化につなげる

ヘルパーが相談しやすい環境づくりを目的に、毎月1回サービス提供責任者ごとに相談する時間をけたが、面談が必要な際には個別に連絡が入り対応できていたため、特に面談の希望はなかった。

一方で、月末に開催するヘルパーミーティング前の相談枠には一定の需要があったため、来年度も継続する予定である。正規職員の業務が立て込み、十分な面談時間が確保できない場合があったため、時間設定の改善を検討している。

6月には懇親会を開催し、常勤職員の異動に伴う歓迎会も兼ねて実施した。ヘルパー同士の交流促進やチームワーク向上に寄与した。



③ 所定の研修実施と、事故・ヒヤリハットについての検討・再発防止に努める

事業所加算申請に伴う研修項目の増加に伴い、従来の紙面による研修受講は業務負担が大きくなってきたため、動画研修サービス「care hint」を導入した。これにより、研修準備や資料作成にかかる事務作業が大幅に軽減された。ヘルパーは高齢の方が多く、動画視聴に慣れるまで時間を要する職員もいたため、導入初期は必要に応じて個別にフォローを行い、視聴方法の説明や操作支援を丁寧に実施した。

事故・ヒヤリハットについては、発生時にミーティング内で原因分析と再発防止策の検討を行い、不参加者には書面で共有する体制を継続した。

(3)活動状況

① 「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言」の実施

今年度、東京都が推進する「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言」を行った。東京都が定めるガイドラインに沿って、採用、人材育成、仕事の評価と処遇、ライフ・ワーク・バランス、職場環境・風土の5つの項目に関する見直しを行った。見直しを行うことで、日々の業務の中では気づきにくい課題や不足している点を把握することができ、職場環境をより良くしていくための方向性を整理する機会となった。

申請に時間と労力を要したものの、すべての項目で基準を満たし、達成率 100%で認可を受けることができた。今回の取り組みを通し、職員が安心して働き続けられる環境づくりに向けた意識が高まったことに加え、事業所としての強みや改善点を客観的に把握できたことは大きな成果であり、今後の採用活動も含め事業運営に生かしていきたいと考えている。



② 補助金の活用

今年度は、事業運営の効率化や職員の働きやすさ向上を目的に、複数の補助金を活用した。

- ・ 障害者支援施設等におけるデジタル技術等活用支援事業補助金（東京都）
Windows10 サポート終了に伴う「ほのぼの」再インストール費用を補助。
- ・ 訪問介護採用経費支援事業（東京都）
求人媒体「マイナビ」の掲載費を補助。
- ・ 介護人材採用活動経費助成金（世田谷区）
相談会で使用するのぼり・机カバー・椅子カバーの作成費用
- ・ 訪問系介護サービス暑さ対策緊急支援事業（東京都）
訪問介護業務に必要な暑さ対策グッズの購入費用を補助。
- ・ 訪問介護事業所等電動アシスト自転車購入支援事業（東京都）
訪問業務の効率化のため、電動アシスト自転車1台の購入費



これらの補助金の活用により、ICT 環境の維持、採用活動の継続、職員の安全確保、業務効率化など、事業運営におけるさまざまな面で支援を受けることができた。

(4)今後の課題

2024 年度報酬改定による介護報酬の引き下げの影響に加え、長くサービスをご利用いただいた方々の施設入所などによるサービス終了に伴い、サービス提供量が大きく減少した。

また、物価上昇や人件費の高騰も重なり、結果として事業開始以来はじめての赤字となった。こうした状況を踏まえ、今後は人員の確保や稼働率の安定化を図りながら、利用者のニーズの変化に応じたサービス提供体制を整えていくことが大切だと感じている。あわせて、事業経費の見直しや加算の継続取得など収支改善につながる取り組みも積極的に進めていく必要がある。

4. ケア相談センター結（介護保険 居宅介護支援事業）

(1) 基本方針

要介護認定を受けた利用者に対して、個々の解決すべき課題、心身の状況、おかれている環境等に応じた「保健・医療・福祉の総合的かつ効果的なサービス」を提供する。「利用者によるサービス選択」を主に、適正な居宅サービス計画及びマネージメントを展開する。

(2) 重点目標に対する取り組み

① 居宅サービス計画書作成数 常勤介護支援専門員一人あたり約 35 件

インテーク→アセスメント→ケアプラン作成→プラン実施→モニタリング→再アセスメント→終結、これら Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)サイクルを基本として、常勤介護支援専門員一人あたり 27.9 人の支援を行ってきた。

② 幅広いケースワークを可能にするためケアマネ 3 名体制で事業を展開していく

介護保険更新代行申請件数 2 件 新規申請件数 2 件を実施した。更新申請については認定期間が最大4年になったことから年度によって偏りが出ている。若年性認知症・成年後見・就労継続支援のケースなど関係各所と連携しながら対応し、高次脳機能障害を持つ当事者及び家族の相談窓口としても、介護保険制度に関する情報提供を行い、相談業務は「ケアセンターふらっと」と連携して行った。

(3) 活動状況

① ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

【ケース 1】脳出血(右視床下部)で左上下肢マヒで、週2回通所リハビリ週1回デイサービスを利用。下肢筋力の低下から歩行が不安定、室内で転倒することが増える。高齢者のみ世帯で主介護者は妻のみのため介護負担も増し、本人を介護老人保健施設に2か月預けることになる。

介護老人保健施設では個別リハビリや生活上の基本動作訓練などを中心に行い、歩行も安定し退所後は通所リハビリも再開できた。介護老人保健施設の入所サービスを利用することで、本人の身体機能の維持や介護者の介護負担の軽減につながったケース。

【ケース 2】脳幹梗塞 四肢体幹マヒ(59歳)身障1級。現在、ADLは一部介助。移動は屋内車椅子、屋外電動車椅子使用。日中はケアセンターふらっと週4回利用。誤嚥性肺炎にて入院後は、経口摂取不可。退院後は訪問診療に切り替え、訪問リハビリ(PT、ST)を開始。リハビリ病院に入院予定。経口摂取の再開を目標に集中的にリハビリを実施予定。

② 高次脳機能障害者の専門相談窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプランの作成

【ケース 3】脳出血(左被殻出血)右上下肢麻痺に加え、右半側空間無視、失語があり身障1級。

現在は日中ケアセンターふらっと週4日、介護保険の通所リハビリ週1回を利用中。退院後は耐久性が低く、通所サービス中も寝ていることが多かったが、移動支援による外出を行うことで徐々に耐久性とモチベーションが上がってきた。現在はプールに通ったり、障害者バンドのキーボードを担当し各種イベントに積極的に参加するなど充実した日々を送っている。

(4) 今後の課題

現在も居宅介護支援事業単独での経営が厳しい状況に変わりはない。一定の担当件数を維持し、より安定した事業継続を行うためには ICTを積極活用するなどさまざまな工夫が必要となる。

適切なケアマネージメントを行うためには、利用者やその家族の生活を支え、継続して支援していくことが必要となる。担当者が信頼関係を損なわず継続してケアマネージメントを提供できるよう順次他事業所への支援移行を進めていく。

5. 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや

(1) 基本方針

世田谷地域(世田谷総合支所管内)に暮らす相談者の声に耳を傾け、その方が生きてきた道のり、考えや思いを尊重し、希望する暮らしに近づくよう共に考え、模索しながら相談支援を行う。また、障害の有無にかかわらず、子どもからお年寄り、福祉事業に携わる方々、様々な営みを続ける地域の方々(町会・商店街・大学等)それぞれの力を借りながら、誰もが存在を認められ、お互いを認め合い、助け合う“つながり”が地域のなかに生まれるよう事業を運営していく。

(2) 重点目標に対する取り組み

① 相談する方が、「困りごと」を安心して話せるための取り組み

誰でも気軽に立ち寄って話せる居場所「スペース ココカラ」を週2~3日開室してスタッフを1名配置し、昨年を上回る1062名の方を迎えた。スペースココカラでは自分のペースで過ごす方もいれば、居合わせた人やスタッフと話していく方もいるが、自然に来所者同士のつながりができている。

特定の職員に相談が集中し抱え込まぬよう、毎日の終礼や週1回のミーティングでケースの経過を共有し、チームで相談を受けられるようにした。

② 障害のある方も、支援者も、地域で暮らしている方も共に参加できる「場」や「活動」づくり

参加型の活動「ちゃお」を通して、なかなか次のステップに繋がりにくい方が細く長くぽーととかかわりを持てるように、また、何か役に立ちたいという気持ちを実現できるような機会を創出した。ちゃおは手芸クラブやイベントのボランティアなど、27回開催し、延べ56人が参加した。手芸クラブを高齢者施設で開催したり、ごきんじょ市や地域のイベントにボランティアで参加することで、地域の方とのつながりが生まれている。ぽーとの利用者に手芸クラブの講師やイベントボランティアとして参加してもらえることで、ぽーとスタッフも助けられている。

③ 困っている方(世帯)の支援を地域の方々と共に考えるための取り組み

あんしんすこやかセンターや保健福祉三課、ぷらっとホーム世田谷との連絡会、四者連携会議等への参加、イベントへの参加などを通して、障害や高齢の垣根をなくし協働できるよう、顔の見える関係づくりを進めた。

(3) 活動状況

① 基本相談支援

相談に来られた方が安心して話すことができ、何に困り、どのような生活を送りたいかに耳を傾け、「困りごと」を把握し、解決に向けた支援につながるよう取り組んだ。

- ・ 相談実人数 : 241人
- ・ 相談件数 : 3,132件
- ・ 拠点「スペース ココカラ。」の活用:延べ1,062名が来所

② 地域包括ケアシステム推進に向けた対応

年齢も障害も立場も関係なく、みんながゆるりと集まり知り合えることを目的とした「ごきんじょ市」の企画・開催。ふるさと区民まつり、雑居まつり、極楽フェスなど地域のイベントにも障害当事者と共に参加した。

- ・ 「ごきんじょ市」の開催
- ・ 地域イベント「区民まつり」「雑居まつり」「極楽フェススピンオフイベント」へ参加
- ・ 池尻あんすこ「にんにん会」へ参加



<ごきんじょ市:ボランティアさんとの集合写真>

- ・ あんすこ主催会議、保健福祉 3 課、ぷらっとホーム世田谷等との連絡会に参加

③ エリア自立支援協議会の事務局

「障害のある方も、希望をもって暮らすことができる地域をともに考える」をテーマに、障害当事者、様々な業種の支援者が言葉を交わし、協議し、以下の活動、企画を開催した。

- ・ 運営委員会の開催(12 回)
- ・ シンポジウム「誰でもウェルカムな居場所の作り方」開催
- ・ 地域の居場所「よりどころ」(6 回)
- ・ 課題抽出シートを用い、委員会で協議し事例から地域課題を見える化した。



<よりどころ:ポッチャ大会を開催。
6団体から 55 名が参加してくれた>

④ 指定相談事業者への支援

各指定相談事業所との連携を図りながら、各事業所の特徴を生かし、利用者にとって適切な計画相談が実施できるよう以下の取り組みを実施した。

- ・ 事業所連絡会の実施(2 回)
- ・ 精神科訪問医を交えた事例検討会の実施
- ・ 世田谷エリア自立支援協議会とぽーとせたがやが共同運営するホームページ「Souhou そうほう」を利用して、相談支援事業所がヘルパーを見つけやすくなるようなマッチングサイト「あいてるん」の創設と運用 <https://sou-hou.com>

⑤ 権利擁護のための支援

権利擁護のための研修や権利擁護事例検討会に参加し、職員ミーティングでケースを共有することを通して、常に権利擁護についての意識を新たにしながら相談を行うよう努めた。必要に応じて、成年後見の申立支援や弁護士相談への橋渡しを行った。

(4)今後の課題

ここ数年、家族の高齢化により家庭内で解決できない課題がでてくることで相談につながるケース(8050世帯)が著しく増えてきている。家族も含めての世帯支援となるため、地域のなかで障害・高齢・生活支援等の多職種支援チームを作り協働して進めることが多い。チームを作ることで地域関係機関とのつながりが強くなるメリットがある一方、何十年も医療や支援機関とつながっていない方など福祉サービスにつなげる材料を探る段階からかかわることもあるため、相談員の経験・知識・技術が求められることが多くある。今後も、このようなケースは増えていくものと思われるので、ぽーとのみならず地域における支援力の向上はさらに必要となってくる。地域のなかでお互いに学びあい、情報や支援技術を高めあっていく取り組みを実践していく。

6. パートナーセンター事業

(1)基本方針

- ① 共に活動するパートナーのコーディネート(紹介・仲介・同行)
- ② 当事者の抱える問題について相談を受け、同様の悩みを持つ当事者や支援機関と連携
- ③ 認知症・障害に関する啓発活動(当事者による情報発信)
- ④ 認知症・障害当事者の活動の場の創出及び地域資源との連携

(2)重点目標に対する取り組み

- ① パートナーセンター事業の活動を SNS なども活用して地域のさまざまな人に知ってもらう。

SNS はフォロワー数が 300 を超え、障害当事者や関係者、地域のさまざまな人が閲覧をしている。「スペースココカラ。」の開室予定日を掲載することで、SNS を見て来室される人も多い。また、GoogleMap に所在地を掲載したところ、これまでに 1000 回以上の閲覧があった。

地域のさまざまなイベントに参加することや、障害当事者である運営委員がこれまでの取り組みについて研修会に登壇することで、少しずつパートナーセンター事業に関心を持ってくれる人が増えている実感がある。古本の寄付の問い合わせもあり、直接的に福祉に携わっていない人との接点も増えていると感じている。

- ② 自主財源の確保に向けた事業を計画・実施する。

今年度、確保できた自主財源としては、(1)「スペースココカラ。」での古本リサイクル、(2)イベントでのリサイクルバザーと食品販売が主な寄付金収入となっている。地域のさまざまな人たちからご寄付いただいた古本のリサイクルは約 35,000 円、リサイクルバザーは約 170,000 円、食品販売は約 60,000 円という実績であった。

(3)活動状況

- ① 運営委員会

2025 年 4 月から 2026 年 3 月まで、「スペースココカラ。」にて 8 回実施した。運営委員として障害当事者の方が延べ 23 名、障害当事者のパートナー(同行スタッフ等)が延べ 11 名参加し、テレビ会議システムも併用した。

- ② 地域のイベントへの参加

太子堂地区民生委員児童委員協議会主催の「太子堂あんしんフェア 2025」、太子堂あんしんすこやかセンター主催の「認知症と共に生きるオレンジの日 2025」、法人主催の「おたがいさまフェスタ」、「ごきんじょ市」、区内で開催された「せたがや区民まつり」「雑居まつり」に参加し、ぽーとせたがやと連携してリサイクル・バザーや食品販売、ポッチャ体験などの出店をし、地域住民との交流を深めながら、広報活動を行った。



世田谷区認知症在宅サポートセンターの依頼を受けて、運営委員と担当職員が「令和 7 年度第一回認知症専門相談等研修会」に講師として参加し、これまでの活動内容を報告した。

「歩いて学ぶ！身近な防災」(主催:太子堂まちづくりセンター)に運営委員 1 名と担当職員が参加し、太子堂地区の防災資源や危険個所の確認などを行った。

③ パートナーセンター企画

運営委員会での話し合いを経て、自主企画として「高尾山登山」を実施した。障害当事者と運営委員が延べ23名参加した。

④ スペース ココカラ。

当事者運営委員1名が毎週1回、「文庫屋」を担当し、古本リサイクルだけではなく、訪れた障害当事者や認知症当事者、福祉関係者などと交流をした。当事者自らが自身の体験を通じた助言や提案などをするなど、ごく自然なピア・カウンセリングの場となっている。

⑤ 啓発活動

世田谷区内で居場所事業を行っている団体が交流や啓発活動を行う「居場所サミット2025」に参加した。障害のある人にとっての居場所の目的や活用の仕方など、実体験から気づいたことを報告した。

(4)今後の課題

① 活動内容の充実

拠点である「スペース ココカラ。」を中心に、地域のイベントに積極的に参加するなど、当事者が中心となって活躍できる場をさらに広げていく。「文庫屋」は当事者が主体的に運営できるように運営委員を中心に取り組み、前年度以上に寄付金収入が増える方法を検討する。

また、当事者が担える地域の中にある「仕事」(役割)と繋がることができるよう、パートナーセンターを広報しながら、太子堂あんしんすこやかセンターや世田谷区認知症在宅生活サポートセンターと協働していく。

② 活動資金の調達

独自の活動資金を確保するため、当事者が講師となる講演会などを企画・開催し、その参加費などを事業収入とする仕組み作りを検討して実施していく。さらに、助成金の申請や寄付などの働きかけを行い、収入の確保を進めていく。

*福祉事業部の実績データ・資料は以降に掲載

2025年度 福祉事業部 実績報告

(1) 利用者の状況

①登録利用者数

部門	事業所	事業名				計				
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練		55				
		46		9						
	With	地域密着型通所				42				
		42								
訪問	連	介護保険		総合支援法		移動支援		自由契約		167
		29		43		75		20		
相談	結	居宅介護支援							36	
		36								
	ぽーと	地域相談							241	
		241								
ふらっと	特定相談支援		高次脳専門相談					156		
	79		77							
合計登録者数									697	

②性別

部門	事業所	事業名								計
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練						55
		男性	女性	男性	女性					
	25	21	8	1						
	With	地域密着型通所								42
男性		女性								
29	13									
訪問	連	介護保険		総合支援法		移動支援		自由契約		167
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
		13	16	21	22	40	35	11	9	
相談	結	居宅介護支援								36
		男性	女性							
	22	14								
	ぽーと	地域相談								241
		男性	女性	不明						
	122	106	13							
ふらっと	特定相談支援		高次脳専門相談						156	
	男性	女性	男性	女性						
48	31	53	24							
合計数		男性	女性	292	不明	13			697	

③年代別

部門	事業所	事業名																計
通所	ふらっと	生活介護				自立訓練												55
		10代	20~40代	50~60代	70代以上	10代	20~40代	50~60代	70代以上									
With	地域密着型通所																	42
		50代以下	60代	70代	80代以上													
		0	11	25	6													
訪問	連	介護保険				総合支援法				移動支援				自由契約				167
		10代	20~40代	50~60代	70代以上	10代	20~40代	50~60代	70代以上	~10代	20~40代	50~60代	70代以上	10代	20~40代	50~60代	70代以上	
		0	1	14	14	0	14	29	0	6	15	53	1	1	4	5	10	
相談	結	居宅介護支援																36
		10代	20~40代	50~60代	70代以上													
	ぽーと	地域相談																241
		1~20代	20~40代	50~60代	70代以上	不明												
		15	87	98		41												
ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談																156
		10代	20~40代	50~60代	70代以上	10代	20~40代	50~60代	70代以上	不明								
		0	29	50	0	1	24	49	1	2								
合計数		10代		23	20~40代		200	50~60代		379	70代以上		52	不明		43	697	

④新規利用開始者数

部門	事業所	事業名																計
通所	ふらっと	生活介護				自立訓練												14
		7				7												
With	地域密着型通所																	4
		4																
訪問	連	介護保険				総合支援法				移動支援				自由契約				31
		4				7				17				3				
相談	結	居宅介護支援																3
		3																
	ぽーと	地域相談																157
		157																
ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談																60
		10				50												
合計新規利用開始者数																		269

⑤退所・契約終了者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			18
		12	6			
	With	地域密着型通所				17
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	18
		4	5	8	1	
相談	結	居宅介護支援				6
		6				
	ぽーと	地域相談				0
		0				
ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			7	
	7	0				
合計退所・契約終了者数					66	

⑥利用率

部門	事業所	事業名			
通所	ふらっと	生活介護 (20名)	自立訓練 (6名)		
		87.6%	92.4%		
	With	地域密着型通所 (18名)			
		68.6%			

※ () 内の数字は、1日当たりの利用定員数

⑦送迎

部門	事業所	事業名		
通所	ふらっと	生活介護		
		委託送迎 台数	自主送迎 台数	回数
		3	3	5315
	With	地域密着型通所		
		委託送迎 台数	自主送迎 台数	回数
		0	3	1542

(2) ボランティア・実習生の状況

①ボランティア人数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			241
		241				
	With	地域密着型通所				95
95						
	ぼーと	地域相談				56
		56 ←ぼーとの相談者がボランティアとして参加した人数(ちやお26回)				
合計ボランティア延べ人数					392	

②実習生数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			95
		95	0			
	With	地域密着型通所				0
0						
訪問	連	事業全体				0
		0				
相談	ぼーと	地域相談				0
		0				
合計実習生延べ人数					95	

(3) 職員体制 ※兼務者を含む人数

部門	事業所	職種												計
通所	ふらっと	管理者	サービス管理責任者	支援員	相談員	看護師	専門職	事務	運転手 清掃員					22
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	
	1	3	2	5	1	2	5	1	2					
	With	管理者	サービス管理責任者	支援員	相談員	看護師	専門職	事務	運転手					12
正規		臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時		
1		2	3	2		1	1	0	2					
訪問	連	管理者	サービス提供責任者	登録ヘルパー	相談員	看護師	専門職	事務					31	
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
		1		3		26				1				
相談	結	管理者		支援員	相談員	看護師	専門職	事務					3	
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
	1		2											
	ぼーと	管理者	相談員	事務員										9
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時							
	1		4	2	2									
ふらっと 特定相談	管理者	相談員	事務員		ふらっと 高次脳相談	管理者	相談員	事務員					7	
	正規	臨時	正規	臨時		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
1		1	2			1		2						
合計数												84		

2025年度 福祉事業部 実績報告

(4) 職員研修

部門	事業所	月	研修名	主催団体	参加人数	計
通所	ふらっと	4	高次脳機能障害者の生活～ちょっと待て！ほんとにいいの？その決断～	特定非営利活動法人高次脳機能障害友の会ナナ	10	41
		5	車いすの基礎～車いすにひそむワナ。利用者のQOL向上のために～	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		6	高次脳機能障害と自動車運転再開について	高次脳機能障害者支援普及事業	1	
		7	地域でよく出逢うコミュニケーション困難な の対応	ケース 世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		7	認知症の人と家族への支援	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		7	第48回てんかん基礎講座	公益社団法人てんかん協会 (波の会)	1	
		7	知っておきたい障害福祉の制度概論	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		8	高次脳機能障害の基礎知識	東京都心身障害者福祉センター	4	
		8	令和7年度 小児の高次脳機能障害に関する研修会	東京都心身障害者福祉センター	1	
		9	BCPのさらなる活用をめざして	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		10	令和二年度第二回高次脳機能障害者相談支援研修会	東京都心身障害者福祉センター	1	
		10	東京都高次脳機能障害支援養成研修（基礎）	東京都	4	
		10	第52回 国際福祉機器展&フォーラム	一般財団法人 保険福祉広告協会	1	
		11	全国障害者リハビリテーション研究集会2025in愛知	社会福祉法人名古屋総合リハビリテーション事業団	1	
		11	今さら聞けない・・・を解消する！障害年金の話	世田谷区機関相談支援センター	1	
		11	社会参加へ向けた支援について～病院・地域の視点から	区西南部高次機能障害者支援普及事業	1	
		12	自立を助ける座りケア～うまい具合の座りの見極め	一般財団法人 福祉用具活用相談センター	1	
		12	普通救命講習	東京消防庁	1	
		12	普通救命講習	東京消防庁	1	
		12	普通救命講習	東京消防庁	1	
		12	普通救命講習	東京消防庁	1	
1	普通救命講習	東京消防庁	1			

	2	東京都高次脳機能障害支援養成研修（実践）	東京都	4	
With		認知症ケア研修 医学的視点からの理解と支援（動画）	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	3
		認知症ケア研修 権利擁護について～	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		若年性認知症の理解と支援（動画）	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
	4	接遇力を高めるためにできること	全体研修	26	
		認知症ケアの理念と視点	世田谷区福祉人材・研修センター	1	
		自立支援につながる介護技術	区西南部地域リハビリテーション支援センター	1	
	5	緊急時の対応	全体研修	26	
		介護職が学ぶフットケア	世田谷区福祉人材・研修センター	2	
	6	利用者・家族とのコミュニケーション	世田谷区福祉人材・研修センター	1	
		高次脳機能障害者ガイドヘルパー	世田谷区保健センター	2	
		虐待防止と身体拘束	全体研修	26	
	7	障害福祉の制度概論	世田谷区保健センター	1	
		食中毒予防及び蔓延防止	全体研修	26	
		自立支援につながる介訪問介護計画	世田谷区保健センター	1	
		クレーム対応	世田谷区保健センター	1	
		セクシャリティの理解	世田谷区保健センター	1	
		認知症とともに生きる希望条例	世田谷区保健センター	1	
		移乗介護	世田谷区保健センター	1	
	8	介護事業者の事業・経営戦略	世田谷区保健センター	1	
		高次脳機能障害の基礎的知識と実践的アプローチ	世田谷区保健センター	1	

訪問

連

9	サービス提供責任者のしごとを学ぶ	世田谷区保健センター	1
	ハラスメントの防止	世田谷区保健センター	1
	権利擁護について	世田谷区保健センター	1
	褥瘡ケア	アルケア株式会社	1
10	法令遵守「ケアとコントロール理論」	全体研修（動画）	26
	事故再発防止「ヒヤリハットとは」	全体研修（動画）	26
	BCPの基礎知識	全体研修（動画）	26
	自閉症スペクトラム症と強度行動障害への理解とアプローチ	世田谷区保健センター	2
	高次脳機能障害のある方が自分らしく生きる自立とは	東京都心身障害者福祉センター	1
	虐待防止と意思決定支援	世田谷区保健センター	1
11	ぱぱっと作ろう！時短レシピ	世田谷区保健センター	2
	認知症「あんた盗ったでしょ！」	全体研修（動画）	26
1	高齢者の見取り	全体研修（動画）	26
	高齢者虐待 第1回	世田谷区保健センター	1
	高齢者虐待 第2回	世田谷区保健センター	1
	依存症の方との付き合い方	世田谷区保健センター	1
	認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために	世田谷区保健センター	1
	高次脳機能障害がある人の可能性を学ぶ！「当事者の想いに触れる座談会」	世田谷区保健センター	1
	高齢者虐待対応研修 第3回	世田谷区保健センター	1
2	ターミナルケア「高齢者の看取り」	全体研修（動画）	26
	摂食嚥下治療とアプローチ	世田谷区保健センター	1
	今、考えたい高次脳機能障害者への支援	世田谷区保健センター	1

347

		世田谷版 地域包括ケアシステムを学ぶ	世田谷区保健センター	1	
		感染症対策訓練「手洗いチェッカー」	全体訓練	26	
	3	業務継続計画訓練 「地震, 感染のシミュレーション」	全体訓練	26	
		これからの世田谷の福祉を考える	世田谷区保健センター	1	
	結	5 私たちの支援について～事故から学ぶ～	福祉事業部内部研修	1	8
		7 高次脳機能障害者への支援を考える (DV D)	福祉事業部内部研修	1	
		8 高次脳機能障害の基礎知識と実践的アプローチ	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		9 高次脳機能障害者支援研修会	東京都心身障害者福祉センター	1	
		9 BCP策定に関する基礎研修<BCP机上訓練>	動画研修 (care hint)	3	
		10 高齢障害者への支援を学ぶ (動画)	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		11 若年性認知症の理解と支援 (動画)	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
	相談	5 成年後見セミナー～基礎から知る成年後見制度～	世田谷区社会福祉協議会成年後見センター	1	29
	ぼーと	6 ぼーと初任者研修	世田谷区障害保健福祉課	3	
		6 東京都相談支援従事者初任者研修	世田谷区	1	
		6 東京都相談支援従事者現任研修	東京都	1	
		7 成年後見セミナー～基礎から知る成年後見制度～	世田谷区社会福祉協議会成年後見センター	1	
		7 基本相談スキルアップ研修	世田谷区基幹相談支援センター	2	
		7 東京都相談支援従事者初任者研修	世田谷区	1	
		7 東京都相談支援従事者現任研修	東京都	2	
		8 発達障害について考えよう ～大人の事例から見えてくるもの～	世田谷区発達障害相談・療育センター げんき	1	
	相談	9 高次脳機能障害者相談支援研修会 (動画視聴)	東京都心身障害者福祉センター	6	

ぽーと	9	基本相談スキルアップ研修	基幹相談支援センター	1
	10	基本相談スキルアップ研修	基幹相談支援センター	1
	11	キャリアデザインとセルフマネジメントについて学ぶ	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	12	今さら聞けないを解消する!障害年金の話	基幹相談支援センター	1
	1	第33回認知症当事者勉強会「丹野智文さんと仲間たちの英国の旅(報告会)」	認知症当事者勉強会世話人	1
	1	基本相談スキルアップ研修	基幹相談支援センター	1
	1	ヤングケアラーの支援の現状	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1
	2	下馬太子堂地区医療連携会議 (Zoom)	下馬あんすこ・太子堂あんすこ	1
	2	ひきこもり支援連絡会	ぷらっとホーム世田谷リンク	1
	2	世田谷区成年後見センター権利擁護事例検討会	世田谷区成年後見センター	1
			合計研修参加数	428

IV. 組織推進部

2024年度からの新たな中期計画では、協会のめざす姿を『だれでも、地域社会の中で支え合いのつながりを持つことができ、互いに尊重し合って、安心して自分らしく暮らすことができる社会』として、各部署で重点事業を設定し、2027年度までの4か年間の具体的な取り組みを定めている。

組織推進部としては、「安心して働き続けることのできる職場環境づくり」と「業務デジタル化の整備・推進」を基本方針に、2年目の2025年度は、重点目標に①コンプライアンス経営の継続、②働きやすい環境の整備、③寄付拡大の取り組み、④業務デジタル化への取り組みの4つの目標を挙げて事業を実施してきた。重点目標の対しての実施結果を以下のとおり報告する。

重点目標に対する実施結果

① コンプライアンス経営の継続

電子データの適正な管理体制の維持と業務手順の整備を図ることを進めるため、関連する人員体制を強化し、新たに専従職員を配置した。

② 働きやすい環境の整備

勤怠の電子化により、出退勤の明確化、休暇や超過勤務等の手続きの電子申請が可能となり、給与計算等の省力化を進めるとともに、手続きの簡素化を進めることができた。

また、就業規則をはじめとする多くの規程類の改定を進め、働きやすい環境の整備を図った。

③ 寄付拡大の取り組み

協会で行き届く多様な事業への関りをきっかけに、寄付という参加手法についても理解が得られるように、協会の事業別の寄付募集チラシを配布するとともに協会全体の紹介をするリーフレット作成の検討を進めた。また、2024年度から寄付受け付けのポータルサイトをインターネット上に開設し、当協会のホームページ上にもバナーを新設して24時間受付可能なクレジットカードや銀行振込による寄付の取扱いを開始している。



<クレジットカードでの寄付ができるポータルサイト(シンカブル)の世田谷ボランティア協会の受付画面
←こちらのQRコードから寄付いただけます>

④ 業務デジタル化への取り組み

今年度については情報端末として業務に欠かせない『パーソナルコンピューター(以下、PC)』の多くの『基本ソフト(オペレーションシステム)(以下、OS)』が使用期限になることに合わせて、必要により各部署でバラバラに導入を進めてきたPCについては、法人として安全に管理・運用するため、必要台数を取りまとめたうえで、リースによる一括導入を進めた。さらに、情報セキュリティ上の観点からデータサーバーを導入しデータの安全運用体制を整備した。

1. 組織運営

理事会、評議員会、常任理事会等を開催し、円滑な法人運営を進めた。

また、役員にあたる理事、監事及び議決機関となる評議員の一斉改選を実施し、ガバナンスの強化を図った。

① 役員・評議員の選任

6月の定時評議員会終了をもって役員(理事、監事)と評議員の任期が満了となることから改選を行った。役員については第1回理事会にて次期役員候補者の推薦を行い、定時評議員会にて選任された新たな理事により、第2回理事会を同日開催し、理事長及び常務理事の選定を行った。

また、評議員も改選となることから評議員選任解任委員会を開催し、評議員の選任を行った。

② 理事会の開催

法人の執行機関として理事及び監事の出席のもと以下決議、報告を行った。

また、職員の給与の関わる規程類について、福祉事業における東京都からの手当を受給するにあたり
の修正の必要が生じたため、臨時で理事会を開催した。

回数	開催日	議決事項
第1回	6/11	<ul style="list-style-type: none"> ① 2024年度事業報告書案・決算報告書案の承認 ② 任期満了に伴う次期役員(理事、監事)候補者の推薦について ③ 役員等賠償責任保険契約について ④ ケアステーション連運営規程(訪問介護)の一部改定について ⑤ ケアステーション連自由契約サービス実施規程の一部改定について ⑥ 職員の職名に関する規程の一部改定について ⑦ 夏季休暇実施基準の一部改定について ⑧ 職員就業規則の一部改定について ⑨ 臨時職員就業規則の一部改定について ⑩ 職員給与規程の一部改定について ⑪ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部改定について ⑫ 定時評議員会の招集事項の決定について
第2回	6/26	<ul style="list-style-type: none"> ① 理事長の選定について ② 常務理事の選定について
臨時	7/31	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員給与規程の一部改定について ② 臨時職員就業規則の一部改定について ③ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部改定について
第3回	11/11	<ul style="list-style-type: none"> ① 2025年度第1次補正予算案について ② 経理規程の一部改定について ③ 育児・介護休業等に関する規程の一部改定について ④ 職員就業規則の一部改定について ⑤ 臨時職員就業規則の一部改定について ⑥ 登録ホームヘルパー就業規則の一部改定について ⑦ 契約職員就業規則の一部改定について ⑧ 契約職員給与規程の一部改定について ⑨ 2025年度第2回評議員会の招集事項の決定について

第4回	3/10	<ul style="list-style-type: none"> ① 2025 年度第2次補正予算案について ② 理事候補者の推薦について ③ 2026 年度事業計画書案および予算書案について ④ 職員就業規則の一部改定について ⑤ 夏季休暇実施基準の一部改定について ⑥ 職員給与規程の一部改定について ⑦ 職員昇格基準の一部改定について ⑧ 福祉事業部職員給与規程の制定について ⑨ 福祉事業部職員昇格基準の制定について ⑩ 再雇用職員就業規程の一部改定について ⑪ 再雇用職員給与規程の一部改定について ⑫ ケアセンターwith 運営規程の一部改定について ⑬ 2025 年度第 3 回評議員会の招集事項の決定について
-----	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

③ 評議員会の開催

法人の議決機関として評議員の出席のもと以下決議、報告を行った。

回数	開催日	議決事項	報告事項
定時 (第1回)	6/26	議決事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 2024 年度事業報告書案・決算書案の承認について ② 任期満了に伴う役員(理事・監事)の選任について 	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 次期評議員の選任結果について ② 2024年度予算流用について ③ ケアステーション連運営規程(訪問介護)の一部改定について ④ ケアステーション連自由契約サービス実施規程の一部 改定について ⑤ 職員の職名に関する規程の一部改定について ⑥ 夏季休暇実施基準の一部改定について ⑦ 職員就業規則の一部改定について ⑧ 臨時職員就業規則の一部改定について ⑨ 職員給与規程の一部改定について ⑩ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部改定について ⑪ 役員等賠償責任保険及び役員災害補償保険の加入について ⑫ 社会福祉充実計画の試算について
第2回	11/26	※議決事項はなく、以下報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 2025 年度第1次補正予算案について ② 経理規程の一部改定について ③ 育児・介護休業等に関する規程の一部改定について ④ 職員就業規則の一部改定について ⑤ 臨時職員就業規則の一部改定について ⑥ 登録ホームヘルパー就業規則の一部改定について ⑦ 契約職員就業規則の一部改定について ⑧ 契約職員給与規程の一部改定について ⑨ 上半期事業報告及び決算報告について 	

第3回	3/24	<p>議決事項</p> <p>① 理事の選任について</p> <p>報告事項</p> <p>① 福祉事業部の事業拠点の移転について</p> <p>② 2025年度第2次補正予算について</p> <p>③ 2026年度事業計画書及び予算書について</p> <p>④ ケアセンターwith 運営規程の一部改定について</p> <p>⑤ 職員就業規則の一部改定について</p> <p>⑥ 夏季休暇実施基準の一部改定について</p> <p>⑦ 職員給与規程の一部改定について</p> <p>⑧ 職員昇格基準の一部改定について</p> <p>⑨ 福祉事業部職員給与規程の制定について</p> <p>⑩ 福祉事業部職員昇格基準の制定について</p> <p>⑪ 再雇用職員就業規程の一部改定について</p> <p>⑫ 再雇用職員給与規程の一部改定について</p> <p>⑬ 福祉事業部再雇用職員給与規程の制定について</p> <p>⑭ 2026年度 評議員会の開催日程について</p>
-----	------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

④ 評議員選任・解任委員会の開催

2025年度は役員、評議員の一斉改選の年度となっており、評議員の選任については、理事会で評議員候補者の推薦をし、推薦された候補者について同委員会にて選任を行った。

実施日:6月4日 16時30分～18時30分

⑤ 監事監査の実施

2024年度の法人運営について経理・会計処理の確認と、事業内容の運営や組織運営の状況について監事による監査を実施した。

実施日:6月4日 9時30分～16時

⑥ 常任理事会の開催

法人の日常的な業務や各部の事業の執行状況等について審議するため、月に1回開催した。

(構成員:理事長、常務理事/事務局:各部長等)*年度内12回実施。

⑦ 部長会の開催

各事業部間の情報共有と事業執行上の課題を協議するため、事務局長、各部長で構成し、毎月1回の定例会議として開催した。

⑧ 衛生委員会の開催

産業医の指導のもと、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保するため、定期的に委員会を開催した。(年6回)

また、衛生管理者については法人内で1名体制としていたものから、拠点毎で適切な対応を行うため衛生管理者資格取得の奨励を行い、衛生管理者の資格取得者の拡充を図った。

(委員長:統括管理補助者1名、委員:産業医1名、衛生管理者1名、衛生経験者4名 計7名)

⑨ 産業医による職場巡視の実施

産業医と衛生管理者が拠点施設ごとに各職場を訪問し、職場環境の確認や職員から直接話を聞き取り、労働衛生環境の点検や各職場の労働環境の改善を行った。

- 4月:(砧ボランティアビューロー準備室及び烏山ボランティアビューローの2つの職場)
- 7月:下馬3丁目(サザン三軒茶屋)拠点(with、連、結、ぼーとせたがやの4つの職場)
- 10月:(玉川ボランティアビューロー)
- 12月:(世田谷ボランティアセンター及びケアセンターふらっとの2つの職場)
- 2月:(北沢ボランティアビューロー)

⑩ 健康診断の実施

職員の健康維持増進・健康管理のため、雇用保険の対象となる職員を対象に健康診断を実施した。これまでオプション健診としていた35歳以上で発症リスクが高くなる婦人科系の癌健診を無料化し、受診を勧めた。健診結果は産業医に報告し、必要に応じて個々に指導を行った。実施報告については労働基準監督署へ提出した。

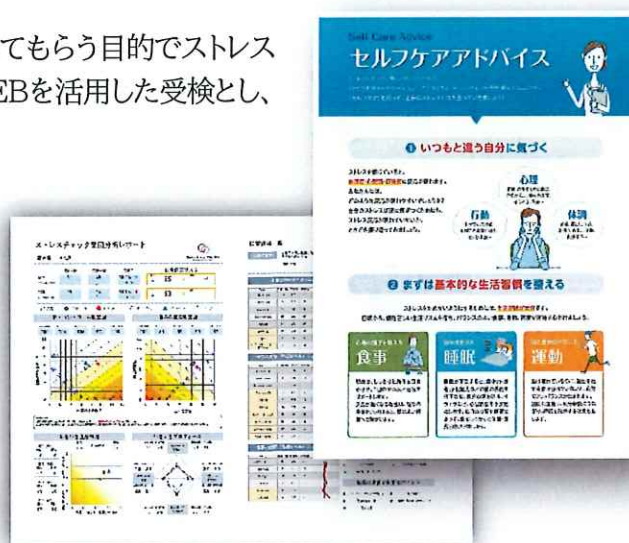
実施時期:9月~1月 対象人数:63名 受診者数:63名

⑪ ストレスチェックの実施

職員のセルフケア対策として自身の心の状態を知ってもらう目的でストレスチェックを実施した。今年度は全ての職員を対象にWEBを活用した受検とし、WEBで行う事で個人のスマートフォン等での受検も可として、受検機会の拡充を進めることができた。また、受検結果と結果に基づくセルフケアアドバイスも各自に通知され、心の健康を考えるきっかけにつながった。

実施結果は労働基準監督署へ提出すると共に、衛生委員会において集団分析結果などの報告を行い、各職場における職員のストレス傾向などを共有した。

実施時期:12月18日~1月24日
対象人数:102名 受検者数:85名



<集団分析の結果報告>

⑫ 消防訓練の実施

火災や地震に備えて、四半期ごとにパーム下馬(複合施設)の各拠点(センター、ふらっと、下馬福祉工房)と合同で消防訓練を実施した。

- 実施日 7月10日:初期消火訓練(消火器の使い方)
*世田谷消防署三宿出張所協力
- 9月18日:地震総合訓練
- 11月29日:火災総合訓練
- 3月28日:「ネット」で消防訓練の活用



※各総合訓練は、初期消火、通報、避難誘導等の訓練と想定(火災や地震)を組み合わせ実施した。

2. 事務局運営

当協会は部ごとに異なる事業展開をしており、それぞれの部ごとに必要となるスキルについては研修を実施している。組織推進部からは組織の一員として円滑に業務を行う上で重要になる職制ごとの学びやコンプライアンスの遵守、ハラスメントなどについて正しく理解をしてもらうことを目的に、WEBを活用したオンデマンドの動画研修を実施した。

また、庁舎管理や施設メンテナンスの対応等の対外対応業務や、団体からの後援名義申請の手続きや、文書のファイリングや廃棄等について適正な管理を実施した。

① 職員研修の実施

組織の一員として守るべき規範や、職層ごとに身に付けるべきスキルを確実に身に付けられるように研修を計画的に実施した。これまで実施してきたオンデマンド研修を年間の研修カリキュラムとして今後職制別に研修計画を提案していく。

また、適宜、リモートを含む外部研修への参加を促し、研修成果が業務に生かされるよう伝達研修の実施も併せて推奨していく。

ア. 内部研修の実施(インターネットを活用した職員研修、オンデマンド研修の運用)

職位職制ごとの研修をはじめコンプライアンスやハラスメントに関して、具体的なエピソード等を教材にしたDVD教材を活用し、適宜、該当職員に周知し視聴研修を実施した。

特に、新規採用の職員に対しては、新人職員研修として、心構え(報告・連絡・相談)等のマナー研修やコンプライアンス研修の視聴を実施した。



<自席でのインターネット研修>

また、中堅職員にはリーダーシップやハラスメント関連等の研修を実施するとともに、管理職には管理監督者として求められ役割やコーチング研修等の案内を行い適宜視聴を促した。

インターネットを活用することでいつでも視聴できるため、計画的な視聴(研修)が実施できるよう研修タイトルをまとめた研修カリキュラムを提案し各自研修が進められるように特設サイトを準備した。

研修カリキュラム *各自年間で受講科目・時期を設定し研修を進める

職層 分野	新人～3年未満	3年以上～中堅	主任以上～指導・管理職
業務スキル	報連相の基礎知識	成果がかわるPDCA	コーチングに学ぶ人材育成
業務マインド	社会人のマナー等	実力養成P 組織変革の考え方等	管理職の役割と業務 管理職としての行動等
職員指導		新人職員の育て方・伸ばし方	部下の実力を高めるOJT
コンプライアンス 理解	行動・発言のコンプライアンス違反 事例から学ぶ等	コンプライアンス違反の事例研修	・危機管理対応 ・コンプライアンスの必要性等
ハラスメント	・意識改革 ・社会人としての正しい考え方 等	・危機管理対応 ・ハラスメント理解と防止対策	上司のハラスメント事例から学 ぶ
情報セキュリ ティ	・社会人としての正しい考え方 等 ・メール、SNSの取扱い	ソーシャルメディアの リスク管理	・危機管理対応 ・情報セキュリティの対策
法令知識	法令違反事例から学ぶ	コンプライアンス違反をなくすた めの方策と行動	法令違反とコンプライアンス違 反の対応等
ダイバーシテ ィ	さまざまな働き方への理解促進	求められるうつ病への理解	ケース検討 マタニティ・ハラスメント
メンタルヘル ス	・メンタルヘルス・マネジメント ・職場内のコミュニケーション		

イ. 外部研修等への参加

担当職員に外部研修への参加を奨励し、以下会計及び総務分野でのスキル強化に取り組んだ。

社会福祉法人会計実務研修、社会福祉法人会計決算研修、公正採用人権啓発推進委員研修等

② ボランティアグループ・福祉団体等への後援

地域団体や NPO 団体、福祉施設等から後援名義の申請があった場合に、区内を中心に行われる催しについては、以下のとおり後援名義の使用を許可した。

実施日	事業名	主催
4/27	わくわくシアター2025	こども劇場せたがや
4/20	第6回 せたがや居場所サミット	「せたがや居場所サミット」実行委員会
9/27	第20回 パイ焼きまつり	社会福祉法人 はる
10/12	第50回 雑居まつり	第50回雑居まつり実行委員会

③ 文書管理の適正化

文書管理規程に則り、適正な管理・保管を図り、保存期限切れの文書や不要書類の廃棄を進めた。

3. 財政運営

各事業を継続的に運営していくためには、安定した財源の確保は不可欠となる。福祉事業部については昨年度と同様に介護報酬(基本報酬)の引き下げが継続し事業収益が大きく減少する一方で、介護事業従事者の処遇改善を目的とした国や東京都からの新たな手当の給付が継続された。福祉事業部以外の事業については、主に世田谷区からの補助金を受けて組織運営を行っているが、委託事業については、当協会の強みが活かされる事業を積極的に受託できるよう努めた。

財源として事業やプログラム運営に関わる経費については、自主財源や参加費収入、リサイクル・リユース活動の一環で行っているバザー等の収益を充てている。更に各部の取り組みを様々な手法でアピールすることで、寄付金拡充に努めた。

① 財源の確保

ア. 協会支援者の拡大と新たな財源の確保

当協会への寄付については、窓口で直接受け付けするものと郵便振替用紙による郵便局での振り込みでの取扱いとなっていたが、電子決済が一般的になる中で新たな寄付者の獲得につなげるため、昨年度から当会のホームページやインターネット上の寄付受け付けのポータルサイトから直接、クレジットカードやキャッシュレス決済で寄付ができる仕組みを構築した。

寄付金の内訳については、福祉事業では福祉サービス利用をされている家族等からや、チャイルドライン事業における寄付キャンペーン等を通じて継続的に寄付を下さる方も多くある。

また、区内企業から毎年高額の寄付を頂戴しており、これら寄付は協会の様々な事業活動に活用している。



<高額寄付に理事長から感謝状を進呈した>

寄付金の推移

年度	2021	2022	2023	2024	2025
法人全体	367万円	361万円	576万円	282万円	269万円

*2023 年度実績は能登半島地震被災地支援の募金(1,233,360 円)を含む

イ. 区との連携

当協会の事業運営において、世田谷区からの財政的な支援状況については以下のとおりとなった。区民のニーズを的確に把握し、効果的で求められる以上の成果が上げられるよう取り組んだ。補助金については、ボランティア・市民活動推進事業および法人運営のために1億1,949万円余、ケアセンターふらっとの運営のために6,512万円余の補助金が交付された。また、「災害時におけるボラ

ンティア活動等に関する協定書」に基づく災害応急対策活動費用116万円余が交付された。

なお、福祉事業については、ケアセンターwithには地域密着型サービス事業所への物価高騰対策給付金として3万円余、ケアセンターふらっとには福祉施設等支援事業助成金として17万円余、ケアステーション連には介護人材採用活動経費助成として7万円余が交付された。

経常経費補助金収入の推移

年度	2021	2022	2023	2024	2025
法人全体	1億6,440万円	1億6,575万円	1億7,426万円	1億8,889万円	1億8,607万円

委託事業費については、協会の専門性を生かして次の委託事業を積極的に受託した。

- ・世田谷区災害時ボランティア受入体制整備事業委託
- ・地域障害者相談支援センター事業委託
- ・世田谷区移動支援事業委託
- ・世田谷区高次脳機能障害支援促進事業委託
- ・世田谷区採用1年目、技能1年目「障害福祉体験」研修実施委託
- ・市民活動・NPO活動者向け相談事業委託
- ・せたがや学生ボランティアネットワーク運営支援委託



<烏山もったいないバザールでのバザーの様

ウ.バザー収入

バザー収入は、ボランティア・市民活動推進事業とチャイルドライン事業の重要な財源となっている。

2025年度については、例年開催していた北沢ビューローのバザーが施設改修工事のため実施できなかったことや、センターのリサイクル市が実施体制の見直しを進めている関係から1回のみで開催となったことからバザー回数が少なくなったことが要因となり、コロナ禍前の状況と比してはおおよそ8割減の状況となった。 ※参考 2018年度542万円

バザー収入の推移

年度	2021	2022	2023	2024	2025
法人全体	70万円	89万円	109万円	115万円	93万円

エ.事業収入

福祉事業は、介護保険法による介護報酬や障害者総合支援法による介護給付費など、事業収入が主な財源となっている(2億5,597万円余)。ボランティア・市民活動推進事業等においても、講座の参加費等、自主財源の確保に向けた取組みを進めた。

② 基本財産の保護と運用

協会が保有する1億円の基本財産は、銀行の定期預金で安定的に運用した。さらに、満期になる定期預金については地域での活動を展開する組織として、地元信用金庫などの地域を基盤にした金融機関に預け安全な基本金の運用を進めた。また、信用金庫については広報等の協力も得ることができた。

4. 職員体制

常勤職員 3名(組織推進部長1名/総務担当職員1名/経理担当職員1名)

臨時職員等 2名(庶務・総務担当職員1名/経理担当職員1名)

5. 今後の課題

① 財源の確保

持続可能な組織運営をする上で、財源確保の道筋をつくることが重要になる。クレジットカード等による新たな寄付窓口を開設することはできたが、新規継続寄付につながる周知については協会の多様な活動を見える化していく試みが重要になる。次年度の45周年さらには50周年の節目に合わせて、地域での多様な事業活動をアーカイブ化して組織をアピールすることで寄付の拡充につなげていく。

② ソフト面の充実と推進

「業務のデジタル化の整備・推進」は、組織推進部だけの取り組みではなく、法人全体に関わる取り組みでもあるため、ハード面では情報端末であるパソコンの更新を機にデータの安全な管理運営についての方向性を確認し、パソコンのリースやデータサーバーの構築を実施した。今後はソフト面の充実を図ることが課題となっており、組織推進部としては、人事・労務・勤怠・給与を一体で運用できるクラウドサービスに切り替えを進め、安全で確実な運用を実施していく。実施の推進については人員体制を整えながら間違いのない運用と将来に向けての拡張性も念頭に、ワークフロー等の新たな仕組みの導入も進め、職員個々の利便性も向上していきたい。

組織運営体制図

